



# 東海支部報

日本山岳会東海支部

No. 150 July. 1. 2017

発行 公益社団法人  
日本山岳会東海支部

〒460-0014 名古屋市中区富士見町8-8 OMCビル

電話：052-332-8363 FAX：052-322-7924

郵便口座 00800-5-13749 「日本山岳会東海支部」

銀行口座 三菱東京UFJ銀行 覚王山支店

普通1222073 「日本山岳会東海支部」

編集 星 一男

印刷 (株) 浅井隆文社



第5回夏山フェスタ 右上：東海支部ブース 左上：登山学校生徒募集中 下：セミナー会場 本文P12詳細

## 目次

○H29年度支部通常総会	毛利邦男	2	○第5回夏山フェスタ	毛利邦男	12
H28年度事業報告		3			
H29年度事業計画		4	○春の二つの障がい者支援登山	前田隆久	13
H29年度役員		5			
H29年度組織図		6	○東海岳人列伝(6)	西山秀夫	14
			○東海支部の蔵書からの一冊⑩	石田文男	17
○Canadian rockies alpine			○同好会コーナー 塩の道/スケッチ		19
climbing tour2017	菊池 徳	7	/東海ASC		
			○支部友コーナー	金谷正起	22
○マウントボール東壁レポート	山田利行	9	○委員会報告 亀の会		23
			○会務報告	毛利邦男	24
○「杉田博卒寿記念展」を祝う会	村中征也	11	○ルーム日誌・会員異動	毛利邦男	28
○東海支部向け山岳用品の			○INFORMATION		29
特別販売について	佐野忠則	11	○編集後記	星 一男	

# 平成29年度支部通常総会

総務委員長 毛利邦男

## 平成29年度支部通常総会

5月20日(土)平成29年度東海支部通常総会がOMCビル4階大講堂で開催された。

総会に先立ち午後4時からカナダ在住の谷剛志氏による「実は知られていないカナダの登山」と題した講演が開かれ、映像を交えながらカナダの山の魅力について熱弁を聞くことができました。約50分の講演の後、支部規約第17条第1項に基づく定足数の確認をして、5時から支部通常総会が始まった。高橋支部長の挨拶のあと、支部規約第15条2項により高橋支部長に議長を委嘱し議事に入った。

第一号議案として、平成28年度決算報告と決算報告が上程された。山田副支部長より事業報告に関する説明、および市川会計の決算報告に関する説明がなされた。その後、和田監事より適正に処理されていることが報告され、表決の結果第一号議案は承認された。

続いて、第二号議案として平成29年度の新体制について、役員案及び組織図案が提出された。役員変更については石川富康氏、鈴木常夫氏ならびに長坂博氏の3人が評議員を退任されたのを受け、沖 允人氏、野呂邦彦氏のお二人に評議員をお願いしたこと、新たに登山学校を開校するにあたり、登山教室及び登山学校を統括する登山教育委員会を新たに作ったこと、東海学生連盟代表にも常務委員会のメンバーになっていただくことにしたこと、組織図についてはグループ分けをすることにしたことなどが高橋支部長から説明があった。表決の結果役員案及び組織図は原案通り承認された。

続いて平成29年度事業計画案及び予算案が上程された。山田、片岡副支部長による事業計画案についての説明および市川会計による予算案についての説明の後、表決の結果原案通り承認された。

最後に本部と同様、準会員制度を導入する必要が出てきたことに伴い「支部規約の一部改正案」ならびに「準会員規程案」と支部山行の実態に合わせるべく「支部山行要領の改正案」が一括して上程され、佐野副支部長から趣旨説明を受けた。評決の結果いずれも原



議長の高橋支部長



講師の谷 剛志 氏

案通り承認された。

## 懇親会

総会終了後、東海支部ルームに場所を移し、懇親会が開かれた。青年部と学生の乾杯で始まった懇親会は大いに盛り上がり、懇親会にも参加して頂いた谷剛志氏の周りには終始若い人たちが集まりカナダの情報収集に余念がなかった。最後は高橋支部長の中締めで閉会となった。



懇親会

平成28年度事業報告

期 日	内 容	担 当
1. 公益事業		
(1) 登山に関する文化・学術の振興事業		
毎月第3土曜日	猿投の森 自然観察会	猿投の森づくりの会
4月～3月	わいがや講座	猿投の森づくりの会
6月18日	成瀬 陽一氏講演会「俺は沢ヤだ」	技術向上委員会
7月12日	三浦裕氏講演会「ファーストエイド」	技術向上委員会
8月11日	御在所山頂に於ける「山の日」啓蒙活動	「山の日」事業委員会
11月19日	和田誠士氏講演会「剣沢幻視行」	技術向上委員会
1月21日	関裕一氏講演会「山岳番組の舞台裏」	総務委員会
(2) 児童・青少年の育成事業		
4月23・24日	知的障がい者支援登山、SON愛知と協働 朝明溪谷 参加者 障がい者11名、保護者11名、SON愛知12名、東海支部35名	ボランティア委員会
9月24・25日	御在所フェスティバル(ゴザフェス)	青年部
10月15・29日	親と子のふれあい登山教室 (尾高山) のべ参加者： 親子180名、スタッフ14名、東海支部27名	ボランティア委員会
11月	ひなご幼稚園「森の探検隊」-森の話とクラフト	猿投の森づくりの会
(3) スポーツ及び登山に関する教育・啓蒙事業		
4月～9月	登山教室前期開講 (中日文化センター登山教室、朝日カルチャー登山教室)	登山教室委員会
6月11日～12日	夏山フェスタへの協力	夏山フェスタ実行委員会
10月～3月	登山教室後期開講 (中日文化・朝日カルチャー)	登山教室委員会
(4) 事故防止事業		
6月～11月	指導者研修-7回開催	遭難対策委員会
4月～3月	読図山行 計11回実施	図書委員会
随時	チェンソー慣熟訓練・安全教育	猿投の森づくりの会
通年	携帯電話とメールによる登山届の提出促進	遭難対策委員会
(5) 山岳環境保全事業		
通年	猿投の森、山桜フィールド及び東大演習林における森づくり	猿投の森づくりの会
毎月2回	定例作業	猿投の森づくりの会
9月9日～10日	自然観察山行(長野県大鹿村-リニア新幹線工事による自然破壊について学ぶ) 東海支部から12名参加。	自然保護委員会
7月16日～17日	JAC自然保護全国集会、県立牧野富太郎植物園 (四国支部主催) 参加者90名 (東海支部から7名)	自然保護委員会
6月19日	清掃登山、猿投山 (HAT-Jと協働)	
11月5日～6日	森の勉強会 (関西・京滋・東海共催)、長谷寺・春日大社周辺、参加23名(内東海支部9名)	自然保護委員会
4月～3月	猿投山観察・調査山行	自然保護委員会
11月26日	猿投の森 法人会員デー	猿投の森づくりの会
通年	両棲類および哺乳動物の生態調査	自然保護委員会
(6) 国際交流事業		
8月14日～17	日中韓学生交流登山(立山他)への参加	青年部
(7) その他目的を達成するための事業		
5月10日	春のブラインド登山(視覚障がい者支援登山) -池田山 参加者 49名 (内支援者38名-東海支部他)	ボランティア委員会
5回開催	ひまわり登山(視覚障がい者支援登山) -吉田山 他	ボランティア委員会
10月22日	森の音楽祭(参加者 合計500名)	森の音楽祭実行委員会
11月13日	秋のブラインド登山(視覚障がい者支援登山) -多度山 参加者 視覚障がい者12名、同伴者3名、東海支部31名	ボランティア委員会
2. 共益事業		
通年	支部山行 (計画52回、実施39回)、参加人員延287名	山行委員会
通年	支部友山行(実施36回) 参加 延180名	支部友委員会
随時	支部友ミーティング(計画6回、実施6回)	支部友委員会
通年	定例山行(実施9回、参加延193名)と自主山行(3回実)	亀の会

## 平成28年度事業報告（続き）

期 日	内 容	担 当
通年	定例山行（22回実施、参加延171名）と自主山行（82回実施、参加延211名）	東海ユース
4月	伊木山アイゼントレーニング、子持山クライミング、	青年部
5月	天下峰クライミング、奥三河パワートレイル	青年部
6月	岳沢合宿、御池岳登山、焼岳登山、御在所前尾根	青年部
7月	猿投山読図講習会、小川山クライミング、夜叉が池登山	青年部
8月	奥比叡トレールランニング、伊木山クライミング	青年部
9月	上廊下遡行、大雪山登山、後立山縦走、白根三山縦走	青年部
10月	小川山クライミング合宿、鳳凰三山縦走、富士山登山 クライミング講習会、南岳登山、小川山クライミング、	青年部
11月	OMMレース、早月尾根 六甲山全山縦走、小川山クライミング、OMMレース、 早月尾根	青年部
12月	シラクラクライミング、木曾駒ヶ岳登山、南岳登山、 宝剣岳登山	青年部
1月	剣小窓尾根、中崎尾根、瑞浪クライミング、八ヶ岳尊稜	青年部
2月	イグルー講習会、赤岳登山、八ヶ岳アイスクライミング	青年部
3月	戸隠アイスクライミング、乗鞍岳スキー、滝谷クライミング、 西穂高西尾根	青年部
通年	各種同好会が企画する各種山行。	同好会

## 平成29年度事業計画

期 日	内 容	担 当
<b>1. 公益目的事業</b>		
<b>(1) 登山に関する文化・学術の振興事業</b>		
毎月1回	猿投の森 自然観察会	猿投の森づくりの会
6月18日	山本正嘉講演会「登山の運動生理学とトレーニング学」	技術向上委員会
7月～9月	森の研修会（緑陰講座）	猿投の森づくりの会
毎月1回	わいがや講座	猿投の森づくりの会
通年	森の調査（植生調査、ギフチョウ・動物定点観察など）	猿投の森づくりの会
3月20日～25日	東海岳人写真展	写真展委員会
<b>(2) 児童・青少年の育成事業</b>		
4月22・23日	知的障がい者支援登山（SON・愛知支援登山） － 朝明溪谷周辺で実施	ボランティア委員会
9月	御在所フェスティバル	青年部
10月21日・11月4日	親と子のふれあい登山教室（尾高山）	ボランティア委員会
11月	森の探検隊（幼稚園児森林体験） 猿投の森	猿投の森づくりの会
<b>(3) スポーツ及び登山に関する教育・啓蒙事業</b>		
4月～9月	中日文化センター・朝日カルチャーセンター 春季登山教室開講	登山教室委員会
6月17日・18日	夏山フェスタへの協力	夏山フェスタ実行委員会
7月	登山学校開校	登山教室運営委員会
8月11日	「山の日」啓蒙活動 - 御在所岳と茶臼山高原で実施	「山の日」事業委員会
10月～3月	中日文化センター・朝日カルチャーセンター 秋期登山教室 開	登山教室委員会
12月	雪上訓練	青年部
<b>(4) 事故防止事業</b>		
随時	指導者養成訓練/事故防止講座の開催	技術向上委員会
6月	地図読講習会	青年部
秋	チェンソー慣熟訓練	猿投の森づくりの会
随時	遭難予防講習会 山岳救助訓練などの開催補助	遭難対策委員
<b>(5) 山岳環境保全事業</b>		
通年	猿投の森及び東大演習林における森づくり（雑木林整備・ 人工林整備・植生など整備）+民有林整備	猿投の森づくりの会
通年	JAC山桜フィールド整備（炭焼き体験、ウッドデッキ作 成、シイタケ栽培等	猿投の森づくりの会
通年	植生等保護作業（調査・マーク・保護処置作業等）	猿投の森づくりの会

平成29年度事業計画(続き)

期 日	内 容	担 当
通年	林道整備 (沿道草刈・路面整備・枯死木処理など)	猿投の森づくりの会
7月2日	HAT-Jとの清掃登山、猿投山	自然保護委員会
通年	定点カメラによる猿投の森の動物調査・シカの痕跡継続調	自然保護委員会
7月9日～10日	JAC自然保護委員会全国集会、岐阜市(岐阜支部主管)	自然保護委員会
(6)国際交流事業		
8月7日～14日	日中韓学生交流登山隊の派遣(韓国)	青年部
(7)その他目的を達成するための事業		
5月14日	春のブラインド登山(視覚障がい者支援登山)、美濃天王	ボランティア委員会
10月28日	森の音楽祭 と自然観察会他	森の音楽祭実行委員会
11月初旬	秋のブラインド登山(視覚障がい者支援登山)	ボランティア委員会

2. 共益事業

5月	春山合宿	青年部
6月	小川山合宿	青年部
1月	冬山合宿	青年部
5月20日	支部通常総会	総務委員会
年6回(隔月)	支部友ミーティング	支部友会
毎月3～5回	支部友山行	支部友会
年間45回程度	支部定例山行	山行委員会
毎月1回	亀の会定例山行	亀の会
随時	自主山行(日帰り+宿泊山行)	亀の会
毎月2回	東海Youth 定例山行	東海Youth
随時	東海Youth 個人山行(年間60～70回)	東海Youth
随時	写真撮影山行	写真展実行委員会
1月13日	支部新年懇親会(場所未定)	総務委員会

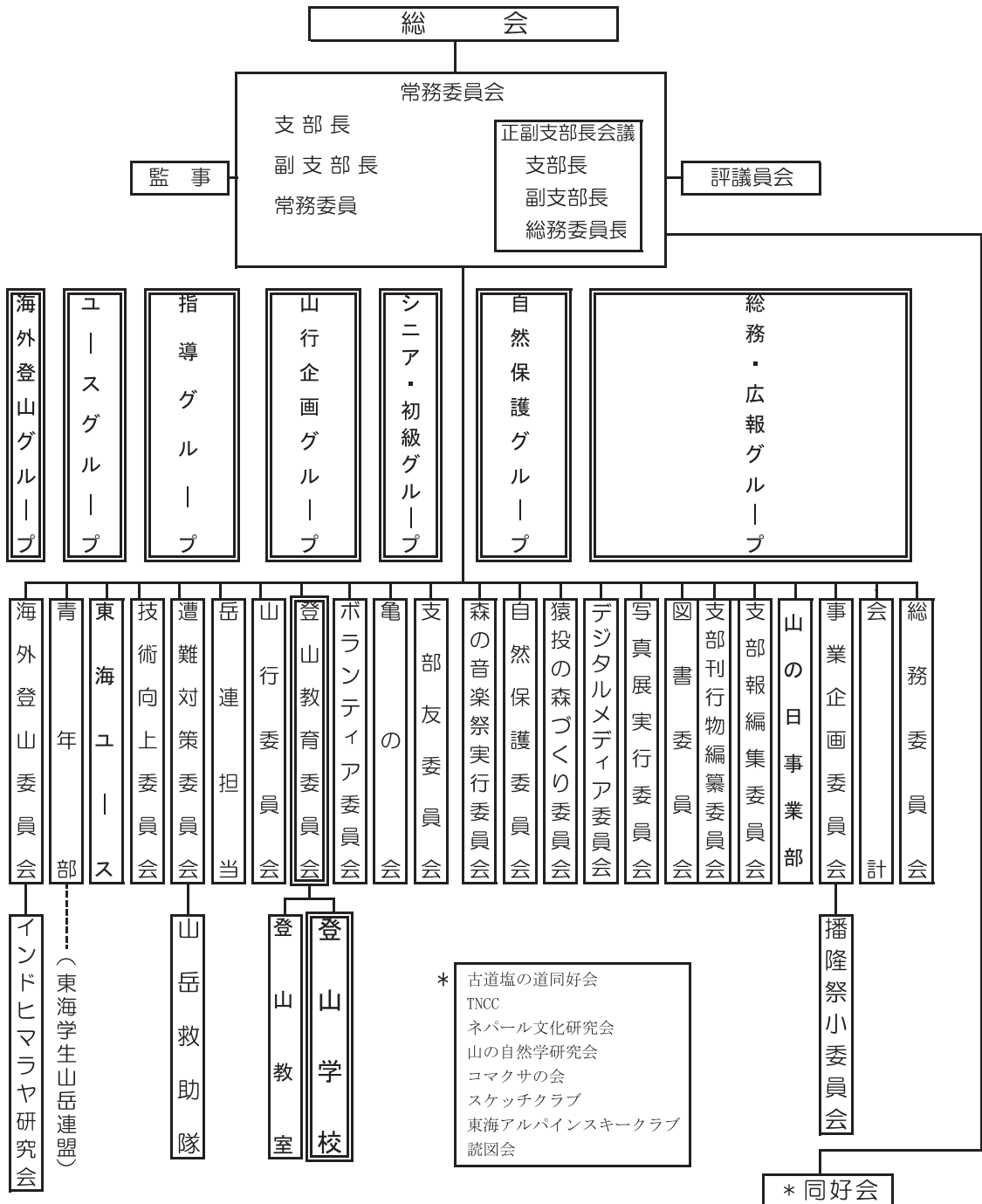
平成29年度 役員

名誉支部員	石原國利				
支部長	高橋玲司				
副支部長	山田明美	佐野忠則	片岡泰彦		
監事	中世古直子	和田豊司			
常任評議員	尾上 昇				
評議員	大口瑛司	杉田 博	箕浦靖夫	横田明信	梶田民雄
	橋村一豊	柴田清康	沖 允人	野呂邦彦	

常務委員会	委員長	常務委員会	委員長
猿投の森づくりの会	小川 務 (代表)	登山教育委員会	天野 徹明
「山の日」事業本部	佐野忠則 (本部長)	登山教室委員会	天野 徹明
東海ユース	山田明美 (代表)	登山学校	高橋玲司
支部友委員会	尾上 昇	図書委員会	石田文男
総務委員会	毛利邦男	海外登山委員会	高橋玲司
会計	市川義行	技術向上委員会	片岡泰彦
岳連担当	鎌倉源助	ボランティア委員会	前田隆久
山行委員会	鈴木慎吾	支部刊行物編集委員会	星 一男
亀の会	加藤守彦	遭難対策委員会	山田明美
支部報編集委員会	星 一男	写真展実行委員会	井上寛之
事業企画委員	毛利邦男	森の音楽祭実行委員会	箕浦靖夫
青年部	藤寄正智	デジタルメディア委員会	井上寛之
自然保護委員会	井藤恵美子	東海学生山岳連盟	澤井 丈典

\*太字は新規委員会、アンダーラインは昨年からの変更者ないしは新任 他は重任

公益社団法人日本山岳会東海支部  
平成29年度組織図



2重枠は新規

- ・正副支部長会議はチャレンジ基金等の用途を含めた支部業務全般の調整を行う。

# Canadian rockies alpine climbing tour 2017

菊池 徳

## 1. 目的

計画ではロッキーのアルパインルートを経験の限りに登りまくる！そんなプランであったが天気に翻弄され、結果一度もアックスを振ること無くツアーが終わってしまった。

本計画を始めたのは昨年(2016年)の11月頃であった。ロッキーの事を何も知らない私は一般的な北半球の考え方で、アルパインにベストなシーズンは春だと思っていた。しかし、ロッキーで一冬過ごし、日々天気をチェックし季節の変わりを感じ様々な場所へ繰り出す中で、日は長いものの天候の安定しない春はベストなシーズンとは言えないということが分かった。日本から来る早戸さんのチケットを今更キャンセルすることも考えたが、運に任せて出来ることをやろう！と気持ちを切り替え動くことにした。カナダのクライミングライフってどんな感じかをまとめた“canadian rockies alpine climbing tour 2017 報告書”として見て頂ければ幸いです。本計画に対しサポート頂きありがとうございました。

## 2. 行動概要

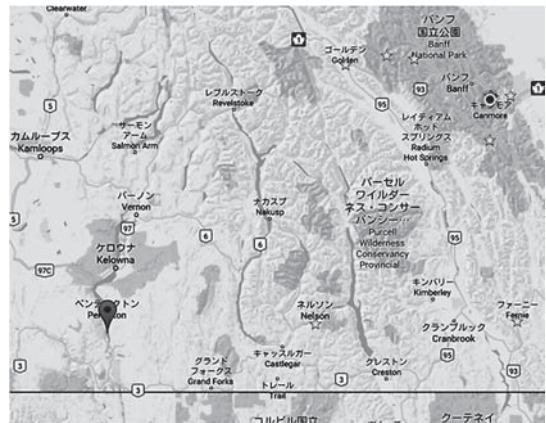
- 4月28日 カルガリーにて早戸・菊池合流  
三日間だけ合流する山田トシと合流しキャンモアにてミーティング
- 4月29日～5月1日 スカハにてクライミング
- 5月2日 Mt. Andromedaに向けて準備後、移動。  
4pm 駐車場着  
5pm Mt. Andromedaアプローチ開始  
8pm Mt. Andromeda基部着、幕営。
- 5月3日 2:30am起床 強風と降雪のため待機  
5am 強風と降雪、登攀ルート上の雪崩が落ち着くまで待機  
11am 天候が落ち着かないため下山を決定  
1pm 駐車場着、キャンモアへ移動
- 5月5日 ヤムナスカでマルチピッチクライミング
- 5月6日 カルガリーへ移動、解散
- 5月7日 早戸カナダ→日本

### 4月28日

キャンモアにて三日間だけ共にする山田トシと合流し9日間のプランをミーティング、ま

ず山田トシも参加する4月29～5月1日の三日間で行けそうな場所を検討するが三日間とも悪天の予報。5月3-4日の二日間だけはどこか狙えそうな予報であった。

28日の時点でもキャンモアの街中でも雪が降っていたためプランと気持ちを切り替えキャンモアから車で7時間の場所に位置する晴れの国スカハに移動しクライミングすることにした。



右上の黒丸がキャンモア、左下のマークがスカハ

スカハはキャンモアより100km以上南でアメリカとの国境まで数十kmの場所に位置し、周辺に険しい山脈が無く湖を有する盆地で天候が安定した温暖な土地であるためブドウの栽培に適しており、オカナガンワインで有名な地域でもある。



スカハのクライミングエリアにて

湖の周辺の小高い丘にはロッククライミングに適した岩が点在している。寒冷で険しい山脈に囲まれたキャンモアと違い開放的で温暖なスカハはとてめ気持ちのいい場所で、天候の急な変化も少ないため、マイナスになりがちだった思考をプラスに切り替えることが出来た。こうしてたまにははるばる遠隔地まで出て気持ちをフレッシュに保たないといけ

ないと感じる。

## 5月2日

昨夜スカハから戻りMt. Andromedaに備えて入念に天気をチェックし装備をパッキング。予報では2日はあまり良くない。3日の夜から4日の早朝にかけて降雪があり、そこ以外は晴れの予報であった。以前トシがトライした際には壁でビバーク中チリ雪崩が止まなかったおかげで衣類がビショビショになり、翌朝潔く下山したそうであった。そんな経験談もあり、可能性としては3日をフルで行動し壁を抜けること以外に選択肢は無さそうである。なかなか慌ただしい感じになったが2日夕方から入山し壁の基部に幕営、5月3日早朝から登攀スタートすることにし、キャンモアを出発した。



壁の中央に見える顕著な凹角がAndromeda strain

キャンモアを出発し93号線を北上する道中には普段は雲に囲われ目にかかれなかった山々が良く見え、予報より天気が良かったので期待の持てる感じであり、正直これは貰ったなとワクワクしながら駐車場に到着し出発した。アプローチ途中はAthabasca氷河の観光バスの道路を歩く事になるのだが、運よく回送途中のバスのドライバーに出くわし、送ってもらうことが出来た。最高の天気の前、幸先の良い出だしでアプローチをこなし、壁の手前の高大な雪原にテントを張った。日没までしばし時間があつたので壁の詳細な偵察と下降予定のスロープと氷河の状態の偵察を行った。壁の基部まではツゴ足だと膝下までうまる積雪であり、登攀ルートの半分は雪壁であったためなかなか泥臭い形になることが想像出来た。ジャパニーズクライマーとラッセ

ルはどこに行っても切り離せない関係である。

テントに戻り早戸さん持参の今後の山ご飯のスタンダードになる激ウマカレー飯を頼張り作戦会議。登攀の核心がはじまる壁の中間までは雪壁なので暗い中でもこなせるだろうとの予定で3時に出発、4時登攀開始、8時に壁の中間核心部、17時トップアウト、の作戦で行くことし就寝した。

翌朝2時半に起床。風が強く降雪になっている模様。壁からは雪崩の音が聞こえて来た。こんな状態では行けないので1時間後再びチェックすることにした。1時間後、まだ天候は落ち着かない様子でその後、待てども落ち着く気配は無いため下山することにした。

下山時、再び行き際と同じドライバーに出くわし、少しの距離であったが送って頂いた。ドライバーは僕らが降りて来てないかずっと見ていたらしい。あまりにも呆気無い終わりでむなしい感じはしたが、パーティとして気持ちさがそちらに傾いたらそこまで。さあ残り3日をどう過ごそうか。

## 5月5日

山の天気はよろしく無いが、キャンモア周辺の岩場は行けそうであったのでヤムナスカでマルチピッチをする事にした。道中雨が降ってきて沈みかけたが、風上の空は晴れているのですぐに晴れた。今日こそ登りきるぞ！

トライするのは355m 5.11a二つ星のルートでビレー点以外は全てトラッドで、このグレードでトラッドはロッキーでは珍しい。石灰岩でトラッドというと早戸さんにとってあまり馴染みは無く新鮮だったみたいで、どこでも行けそうで行けないライン取り、怪しいプロテクション、そして何より脆い岩。これぞロッキーらしいルートを楽しんで貰えたようで良かった。しかし、最後のピッチでラインを間違えて登っていたところ掴んでいた岩が取れてフォール、三つセットしていた怪しいプロテクション達は僕を止める事無く全て外れビレーしていた早戸さんの下まで落ちてしまった。手のひらを擦りきって血だらけであったが問題なく動ける状態であったのは幸い。ロッキーらしさを伝える、身を張ったデモンストレーションとなり、自分が一番楽しんでしまった。





Mt. Yamunaska, Highlander 5.11a 355m 破線のライン  
リードを早戸さんに変わり無事にトップアウト。最後にキャンモアを象徴する一つの山ヤマナスカの頂上に立って貰えてめでたしであった。(この後下降路を間違え通常の三倍の時間を要し車に戻ってへろへろで帰宅した。)

### 3. 反省点

ロッキーでのアルパインは町から近く、ア

ルパインに行けない時でもプランBを選べるメリットがあるので、僻地のアルパインのようにひたすら停滞することは無いが、少ない荷物での短いアプローチでアタックできてしまうこともあり、壁やベースでの粘り強さというものが無くなってしまふ気がしている。アルパインでは情報に左右されない感覚的な判断も必要で、いろんなパターンを考え攻略していく粘り強さも大切な部分であると思う。

冒頭にロッキーの春の天気は不安定である  
と書いたが、3週間程の期間で見ると晴れの続く周期は短いが必ず訪れる。日本で仕事をしながら休みを取って来るとなると短い期間で取れるタイミングも限定的な月になってしまう為目標に対して見合ったものなのか、なかなか難しい課題の一つであるが出来る限りトライする事は大切である。菊池はまだまだ滞在する予定なのでタイミングがあれば冬の初めに再びトライしたい。

## マウントボール東壁レポート

山田利行

### 行動概要

2017年2月下旬: 谷と山田にてマウントボール東壁の偵察山行を行い、1本のアイスクライミングラインを初登するとともに壁のコンディション、登攀予定ラインを確認した。3月9日、星野が現地合流し、本番に備えた直前トレーニングを行う。山田が体調を崩したため入山を延期し4月2日に入山を開始、BCを設営。4月3日登攀を開始するも1ピッチ登ったところで頻発するチリ雪崩のため敗退。東壁及びもう一つの候補であった北壁からも数度の巨大な雪崩を確認し、壁のコンディション的に登攀の続行は危険と判断し今計画は失敗に終わった。

### 反省

昨年から引き続きのプロジェクトであったが、あっけなく終わってしまった。数十年に一度と言われる雪崩のサイクルに入ってしまったカナディアンロッキーにおいてコンディションの判断はとて難しいものであった。2月末の偵察時よりも4月の積雪は圧倒的に多く、上部に大きなセラックと巨大な雪壁を抱



2017年のマウントボール東壁(左の線: 2016年トライしたライン、真ん中の線: WASABI、右の線: 2017年トライしたライン)



2016年同じ時期のマウントボール東壁

えるマウントボール東壁は落ち着いているように見えたが、いつ巨大な雪崩が来るか分からない恐怖があった。しかも壁は東面であり日中は陽が燦燦と当たっていることがさらに恐ろしかった。

登攀を開始した4月3日は陽の当たる午前中を避けあえて陽の当たらない午後から登攀を開始したにも関わらず、止まらないチリ雪崩を受ける羽目になってしまった。それとほぼ同時のタイミングで第二候補としていた北壁側から、辺りの山を埋め尽くす雪煙を巻き上げるほどの巨大な雪崩が起きたのであった。予定していた東壁、北壁ともに可能性がなくなったことを悟って敗退したのであった。

今回の計画で学んだこと、それは自分がロッキーの山を全然知らないという事実を改めて認識したことであった。2年前のテンプル北壁とワイルドシングスの登攀でロッキーの山を知った気になっていたが、よくよく思い返してみるとその二つの山以外積雪期のロッキーの山を完登したことがなかった。去年も今年もいくつかの山へチャレンジはしていたが、どれも失敗に終わっている。勿論それらは仕事の合間の休みで行った日帰りでの計画ばかりなので日程的に余裕はなかったのだが、それにしてもちゃんとそれに見合った山やラインを選んでいるはずなのに登れてなさすぎる。それはつまり自分の登攀能力が足りないこと、ロッキーの壁は大きく難しいということ、ロッキーの山の経験が少なすぎる結果だと分かった。

そして今まで積雪期アルパインクライミングのベストコンディションだと思っていた春は、冬よりも雪が多く天候が不安定で実は条件の厳しい時期だということも理解できた。

ルートによっては3月初旬。そしてベストは雪の少ない初冬が一番アルパインクライミングに適した時期だと思う。今後はこの時期にできるだけ多くの山へ通い、自身の経験を積むことが必要であると感じた。もっとロッキーの山に精通していれば今回のようなコンディションで当初の目的が果たせなかったとしても違った成果を上げられていたかもしれない。そしてもう一つ、当初の入山日に酷い風邪を引いてしまい入山を5日も遅らせてしまった。自分の体調管理の不十分さも今回の敗因の一つとして受け止めた。

#### 行動スケジュール

- 2月下旬 谷、山田、菊池で偵察。偵察時に WASABI (WI5, 140m) 初登する。
- 3月14日 メンバーの星野がカナディアンロッキーに到着～三人でのトレーニング山行
- 4月2日 マウントボールへアプローチ、BC着
- 4月3日 東壁アタック 敗退
- 4月4日 再度東壁の可能性を探りに行くも頻発する雪崩にアタックするには至らず下山



1ピッチ目をフォローする山田

開催日時・場所が決まりました！！

## 第16回東海岳人写真展



第15回(前回)の写真展の様子。

日 時：2018年3月20日(火)～25日(日)  
場 所：名古屋市民ギャラリー栄 7階第2第3展示室  
共 催：日本山岳会東海支部、中日新聞社  
作品募集：10月に募集要項発表予定  
《応募、来場をお待ちしています。》

## 杉田博さん卒寿の快挙

村中征也

### 卒寿記念展を開催

評議員の杉田博さんが、2月の東京に続いて6月に名古屋で個展を開催。東京での個展は6回を数え、その他の展覧会は数え切れない程になります。名古屋市民ギャラリーの8F、主催する「すぎな会」との間仕切り隔ての開催となりました。

メインは「ヒマラヤ・農家」。これはフランスで230余年の伝統を持つ「ル・サロン」入選作で、日本人で初応募・初入選は珍しい快挙でした。また「劔岳・三の窓の氷河」は、プラド美術館に展示、国交樹立400年記念の「スペイン財団賞」を受賞しました。

60点の山の絵は、昭和26年から網羅し、北海道から九州まで、国外はヒマラヤ・アルプス・パタゴニアと多彩、大勢の来場者を惹き付けていました。

### 祝う会を開催

90歳での快挙を祝って、「杉田博卒寿記念展を祝う会」を、6月10日(土)主税町クラブで開催しました。

尾上常任評議員が代表発起人を、高橋支部長始め役員方が発起人を引受けて下さいまし

た。何より支部の多くの方が協力して下さいましたお陰で、盛大で楽しい会を開催出来ました。

祝辞では、絵を通じた「クラブライフ」の大切さ、今なお現役のかくしゃくさを称賛されました。沖評議員からは、愛知県山岳連盟隊を率いた1965年ダウラギリⅡ峰遠征の苦楽が紹介されました。謝辞では、「長寿の秘訣」を多数聞かれたが、「明日のスケジュール・月と年の目標を持つこと」と答えておきました…が参考になりました。

OHPでの来歴紹介、オカリナ演奏、山の歌合唱と賑やかに進行しましたが、参加者からの「仕事も山も絵も全力で並外れた業績」を称賛する声に、真似は出来ないまでも、勇気付けられた一日でした。



杉田ご夫妻に花籠贈呈

## 東海支部向け山岳用品の特別販売について

副支部長 佐野忠則

5月号の会員向け本部会報「山」に記載してありますが、日本山岳会では 財政問題解決のため再生委員会を発足させ諸問題を検討してきました。その解決策の一つとして、収益事業を展開することとし、その検討リーダーとして私が担当してきました。具体策の一つとして、東海支部の会員である「駅前アルプス」の千葉社長の協力を得て、各種の山用品を全国の会員を対象に販売することとなりました。商品は多品種を対象とするのではなく、特定のメーカーのよりすぐりの山用品にJACマーク、氏名、会員番号を入れ、その都度、選定し継続的に全国展開するものです。ただ、山用品は色、サイズ、記載する氏名の確認、各個人への配送など確認事項が多く、万全を期すために、全国展開の前に東海支部でテス

ト販売し、ノウハウを取得するものです。

今回の商品はモンベル社の「ストームクルーザー ジャケット」です。(右写真)世界最高レベルの防水透湿性素材である

「ゴアテックス」を使用したレインウェアで、ゴアテックスメンブレンの裏地に軽量性と耐久性を両立した、極めて薄いニット素材を使用し縫い目からの侵入はシームテープで防ぐ構造になっている新しいテクノロジーです。



卓越した透湿性と軽量化を実現し、窮めてしなやかな着心地なので、レインウェアとしてはもちろん、ウインドブレーカーや防寒着としても大活躍するジャケットです。このジャケットの右胸にJACマーク・会員番号(正会員のみ)・名前(ローマ字)を入れ、日本山岳会会員しか購入できないプレミアム商品となりま

す。今回はジャケットのみの販売となりますが、パンツも必要な方は合わせてお買い求めください。

購入希望の方は住所、氏名、サイズ、色など必要事項を同封の申込用紙に記入し、FAX、eメール、郵送いずれかでお送りください。

## 第5回夏山フェスタ開催を振り返って

夏山フェスタ実行委員会事務局 毛利邦男

今年も6月17日(土)と18日(日)の2日間にわたり名古屋駅前にあるウインクあいちの7階と8階で夏山フェスタが盛大に開催された。7階はセミナー会場と山小屋中心の展示会場とし、8階は主展示会場の配置となり、メーカー関係29社、旅行・観光自治関係の28団体と山小屋30など出展小間数は103となった。

来場者数は初日に3,941名と昨年を大幅に上回る数となり、2日間で8,000名超えも予想されたが2日目は3,658名と少しペースダウンとなり、最終的には昨年を若干上回る7,599名の来場者となった。今回は青年部・学生部・東海ユースの諸君がフェスタ運営業務の支援で頑張っていた。この場を借りて感謝の意を表したいと思う。

東海支部のブースでは「山のよろず相談コーナー」に加え、7月に開校することとなった東海支部が運営する「登山学校」の生徒募集が行われ、2日間で45名の入学申込者があった。加えて、昨年から始まった国民の祝日「山の日」をより多くの人に知ってもらおうべく啓蒙のチラシの配布と10月28日開催予定の「森の音楽祭」のチラシも配布した。

今年、最も注目を集めたセミナーは、世界



賑わう7階会場

最年少で7大陸最高峰登頂を果たした早大生の南谷真鈴さんによる「私のセブンサミツ登頂奮闘記」であろう。昨年の田中陽希氏ほどではないが朝早くから整理券を求めて、たくさんの方が列を作っていた。用意した400の整理券は9時の配布開始と同時に無くなってしまった。そのほかには、17日に国際山岳ガイド近藤謙司氏による「僕はヒマラヤ案内人」、長野県警察岸本俊郎氏による「山岳遭難の現場から」、昨年東海支部の新年懇親会でも講演していただいた飯田肇氏による「山岳の魅力と危険を考える」、4人の主な山小屋オーナーによる「山小屋放談会」などが開催された。18日には定番となった鎌田則雄氏による「山の撮り方」、富山大学教授黒田敏氏による「登山中のケガ、病気の対応と予防」などなどのセミナーが開かれた。今年はセミナー会場の座席を100ほど増やしたにも拘わらず、多くのセミナーは聴衆で満席となる盛況であった。

なお、今年は7階でのセミナーに加え、新企画として登山用品専門店による「最新登山用品の紹介・登山用品の上手な扱い方」などをテーマとしたミニセミナーが8階で開催された。



登山学校の説明を聞く人達

# 春の二つの障がい者支援登山 ～見えても、見えなくても山は素晴らしい～

ボランティア委員会委員長 前田隆久

この春、委員会では、視覚障がい者と知的発達障がい者の二つの障がい者支援登山を行った。

委員会では、「ボランティアという言葉が適切か」という議論がなされているが、他に適切な言葉が見当たらない。支援・奉仕という言葉から、ボランティアにつながっていくと思うのだが、昨今の考え方は「支援ではなく、ともに生き、ともに学び、ともに育ち、ともに暮らしていくために、自分のできる範囲で、ともに活動する」、という考え方に変わってきている。

山に置き換えると、「山や自然が好きな仲間がいて、その中にいろいろな人達がいて、たまたまその中に障がいをもっている人がいて、彼らとともに自分のできる範囲で活動し、ともに山を楽しむ」という事だと思う。つつい使ってしまうが、既成の概念から、そろそろ脱却しなければと思う昨今だ。

この春の、17回目となった知的障がい者支援登山と、16回目となった視覚障がい者支援登山を紹介する。

## 知的障がい者支援登山

### 第17回「山岳会と一緒に登山2017」

4月22日(土)・23日(日)の二日間にわたり、鈴鹿朝明茶屋をベースにして、水晶岳登山を楽しんだ。中峠から水晶岳、根の平峠の周回組と、千草登山口から水晶岳往復組の二組に分け、根の平峠で合流して昼食をとるというプランで行った。夜は、恒例のキャンプファイヤーで、アスリート、ボランティア一緒にあって楽しんだ。今回は、アスリート(知的障



アスリートと伴に

がい者)7名、SON愛知、家族スタッフ26名、東海支部30名(学生連盟8名)の63名が参加した。



「山岳会と一緒に登山2017」参加者

## 視覚障がい者支援登山

### 第16回「春のブライント登山」

5月14日(日)、美濃天王山で行った。初夏の新緑の中、気持ちの良い登山だった。



「春のブライント登山」参加者



ブライント登山

今回は、初参加の視覚障がい者2名を含み9名のブライント登山者に対して、付き添い2名、東海支部から28名(学生連盟4名)の39名が参加した。両行事とも好天に恵まれ、けが人もなく無事終了した。以前、支部報の中で「たくさんのありがとうに出会える山行です」と書いたが、今もその思いは強く、登頂して安全に下山した時の、伴に登った人からのその一言が、何よりもうれしい。「見えても、見えなくても山は素晴らしい。」視覚障がい者支援登山では大先輩の、六つ星山の会のHPの冒頭にある言葉だ。

## 東海岳人列伝(6)

### ～木曾駒の冬期初登頂を記録した熊沢正夫～

編集委員 西山秀夫

#### 東海支部との縁

『東海山岳11』の支部創立50年史を読み返すと熊沢正夫の名前は随所に出てくる。『東海山岳5』号の尾上昇氏の書いた追悼文から引く。

「おい、尾上君、名古屋大学にうってつけの人がいるぞ」これが熊沢先生と東海支部との付き合いの始まりである」そう言ったのは原真だった。そこで原、尾上、湯浅の3人で名大まで口説きに行く。以下は熊沢先生の側の回想である。「ある日、大学の研究室に東海支部員と名乗る若者の来訪を受けた。用向きは翌年度から支部長を引き受けよというのである。私も今まで数え切れないほど生命保険の勧誘員に訪問された。「生命保険は一度も入ったことがないし、これからも入る気はない。その私を加入させるよう君が説得するというなら、一つやってみなさい」と。ところが今回の件についてはそんな態度はとれなかった。もともと自分自身特別な登山歴はないながら山好きだったことや、損得かまわずひたむきに山を愛しこれに登ろうとする若者の心情に今でも惹きつけられる弱点がこちら側にもあった。」として快諾された。そしてご遺志で1ヶ月その死を伏せられ、葬儀の類も一切行われなかった。(1982年11月5日死去)

50年史の最終ページの歴代支部長においても尾上氏の14年在任は別格として6年も勤められた。マカルー遠征のために現れ、成功裡に終わると支部を去られた。『東海山岳3』号への寄稿すらできなかった。

復刻版『上高地 登山と研究』に挿入された付録(『上高地』復刻に寄せて一追悼と資料一熊沢正夫先生)に原真も寄稿している。「原には騙されたよ」と熊沢氏の言葉を引きながら支部長就任の顛末を回想するのである。これは後述する。

#### マカルー遠征のいしずえになる

熊沢正夫を調査して、これまで光の当たる部分のみ見て本当の功労者を見なかった。人情の機微に触れるとはこのことをいうのだと思った。マカルー関係者が存命のうちには迂闊なことは書けないと悟った。すべては熊沢正



熊沢正夫氏  
名古屋大学山岳会会報第33号  
「熊沢正夫追悼特集」より

夫の掌の上で踊っていたのだった。東海支部の屈強のアルピニストは熊沢正夫の大きな心に包まれていたことを知る。

#### 『上高地』に見る漢詩の教養

『上高地』を読むと序文から圧倒された。

26歳の時の何とみずみずしい文であることか。

「晴れた日の空を仰いで見ると

とき透徹した大空の青い色ほど美しく又すがすがしいものはない。青空に浮かんで絹のように白く光り輝く一塊の入道雲の動きほど、大自然の無限の力を暗示するものもあるまい。中天に峭立し、白雲をいただいた高峰はたとえそれが地表の突起であっても動かすべからざる意思そのものの権化で大空に戦を挑んでいるのではないか！」以下略

おそらく八高時代に漢詩を学び文章鍛錬を良くされたと思わせた。口語文だが簡潔な中に格調があり、写実的だが詩的高揚感がある。漢詩文の文脈と感ずるのは文節ごとに語尾が韻を踏んでいるからだ。

時代背景を探ると、大正6(1917)までは新愛知(中日新聞の前身の一つ)などの新聞に漢詩蘭があり選者がいた。ネットで「八高 漢詩」で検索すると支那からの留学生と漢詩でやりとりする話もヒットした。その後、忽然と漢詩の識者が消えたわけではなく、教授は生業として存命していた。この時代は一部を除いて文語文から口語文へと書き換えられていった過渡期であった。その残光の中で学んだと思われる。

## 植物学者からみた凡兆の句の解釈

復刻版『上高地』に入っていた付録の冊子を読むと「名古屋大学山岳会会報第三十三号の「熊沢正夫追悼特集」(1983. 3.)」があることを知った。名古屋大学附属図書館にWEBから閲覧の希望を申し入れたがない。さらにネットでググるとほとんどは名大ワングル部の情報だったが最後に名大山岳部掲示板がヒットした。そこに書き込まれたOBのアドレスにメール。本人は持っておらず、2名を紹介していただいた。その1人の岐阜大学工学部の学者・小嶋聡氏が保管しておられた。早速PDFで送っていただいた。小嶋氏は岐阜登高会の会員でもあり高橋支部長と同じ会員だったことも分かった。世間は狭いと思う。

付録のこの小冊子には7人のOBが追悼文をよせているが一番長い「植物珍説審査会熊沢正夫先生の憶い出」を書いた谷本光典氏(医師)の話の中の植物と俳句談義を引こう。

熊沢正夫は江戸時代の俳句にも通じていたようだ。飛騨の高原川左岸にある芭蕉の高弟・凡兆の句碑は小島烏水も私も行ったことがあり、「山」にも見聞記を書いたことがある。

鶯の巢の樟の枯枝に日は入りぬ 野沢凡兆  
谷本氏は芭蕉の批判から凡兆の写実をたたえる方へと議論を進めて、この俳句の樟の木についてずいぶん調査したが真相は分からなかった。その末に熊沢正夫に見解を質す。俳句への関心も実は植物学者らしく、「君もなかなかしつこくやるね。いや楽しみだ。ボクも飛越国境あたりに樟の木はたとえ植えたって育たない。むろん鶯が巢をかけるほどの大木になるはずがない。凡兆虚構説の方へ100%に掛けるよ」と言われた。現地に行った私(西山)も樟の生育する自然環境ではないと思う。

脱線するが、水原秋桜子の有名な俳論に「自然上の真と文芸上の真」がある。こんな場合を文芸上の真というのだろう。村越化石のような盲目の俳人もいる。ホトトギスの本田一杉はハンセン病で全盲の弟子に「肉眼はものを見る。心眼は仏を見る。俳句は心眼あるところに生ず」と教えて励ました。写実とはいえ、現地で見たままという約束はなく、読者の共鳴が大切なのだ。

## 原真の回想

次は原真の回想である。1962年ごろ、原真ら3人で訪問する。原「何もありませんから、ただ支部長の椅子に座っててもらえばいいんです」と説得。熊沢「僕は今年で定年退官する。いままで、こういう依頼はいつさい断ってきたんだが、これからは、若い人のためになることはやってもよいと思っている」と承諾された。ところが凍結されていたマカールの登山許可がおりて支部はマカールに向かう準備で多忙になっていった。そこで熊沢正夫の「原にはだまされた」の言葉が出てくる。原「金集めの大嫌いな熊沢先生が、会社へ頭を下げに行って下さることになった。高木健太郎(名大教授)、伊藤洋平(東海支部副支部長)の両先生にまじって、熊沢先生も金策に狩り出されたのである。」以下略。

熊沢「原君、もともとネパールにはないはずのオーストラリア産の木があるよ」「君、この山には原始林はまったくないな。あそこに見える、小さな緑の斑点、あれだけだよ、原始林といえるものは」と聞いてネパールが原始林を破壊したことを知ったという。

マカールの登頂祝賀会で熊沢氏が「若者が、困難に挑戦するのは非常に良いことである」と讃えた。この言葉に反応して「私は先生をだましたかも知れないが山気がいいにまじって、いくらかは老後を楽しんでくださったかも知れない」と贖罪感を晴らそうとする。マカールの熱狂は冷めるのも早い。原は直後に日本山岳会を退会してしまう。蜜月は続かなかった。東海支部は休会に追い込まれ、事務所も閉鎖され、熊沢氏のご自宅で会務が処理された。雑多な登山家の集まる山岳会の人事に疎い熊沢氏には気苦労をおかけしたと思う。**登山の業績と評価**

一般に知られた登山歴は白水社『日本登山体系 八ヶ岳・奥秩父・中央アルプス』(1981年)の中央アルプス概説(中央アルパインクラブ・執筆者は水谷健)に「アルピニズムの開幕は積雪期登山に始まり、大正13(1924)年12月、八高の熊沢正夫らが上松より木曾駒ヶ岳に登っている。以下略」「戦前の中アは、八高、名高商、名古屋山岳会など中京地方のアルピニストによって精力的に開拓され、主だった沢は殆ど踏査されたものの、すべては戦禍で無に帰して敗戦を迎えたのである」とあ

った。小冊子には風雪の餓鬼岳に単独登山を  
挙行したことが書いてあった。

『上高地 登山と研究』にあるように熊沢正  
夫の山の把握の仕方は八高山岳部の時代に徹  
底して登山を楽しんだ。木曾駒ヶ岳の冬期初  
登頂の榮譽をえているが関心は自然科学に向  
けられたと言ってもよい。

これは志賀重昂の把握の方法と同じなので  
『日本風景論』を愛読したことは想像に難く  
ない。前著の目的は日本の山岳の博物的な啓  
蒙であり、自ら登山して得た知見でもなく実  
証的ではない。しかし、日本全国を実証的に  
やるには広過ぎるから上高地 1 本に絞ったの  
である。一木一草の科学的な把握に努めた。  
地域研究という態度が深みを与えた。登山が  
即観察であり、研究だったのだ。

似たような学者に2つ年上の今西錦司(1902  
-1992)がいる。今西も登山から得られる知見  
を学問とした。今西は柳田国男に学び、自分  
の今西学も柳田学が民俗学になったように自然  
学を提唱した。講談社学術文庫『自然学の  
提唱』。

熊沢学は今西のような地理的な博物的な展  
開はせず、顕微鏡を使って細胞を観察する  
というより緻密な植物器官学に収斂していった。  
その違いが大衆性を得られなかったと思う。  
34歳で受けた理学博士の学位論文「ウマノア  
シガタ科とメギ科の比較細胞と形態」は顕微  
鏡の世界である。『上高地』が売れて印税が  
入り、そのカネで顕微鏡を購入したのだ。同  
じ山岳の自然を学問の対象にしながら熊沢学  
はミクロ、今西学はマクロであった。

#### 熊沢正夫の略歴

明治37(1904)年 名古屋市生まれ

東海中学校、を経て

大正12(1923)年 19歳 第八高等学校入学、  
山岳部入部

大正13(1924)年12月 積雪期の木曾駒ヶ岳に  
初登頂

昭和元(1926)年 22歳 八高を卒業後、東京  
帝国大学に進学、スキー山岳部に所属、山  
稜会(八高山岳部OB会)設立

昭和4(1929)年 25歳 理学部植物学科卒業、  
日本山岳会会員(N o 1129)になる。

昭和5(1930)年 26歳 『上高地 登山と研究』  
出版

昭和6(1931)年 27歳 共著『登山とキャンピ  
ング』出版

昭和8(1933)年 29歳 金沢第四高等学校へ  
赴任、結婚

昭和9(1934)年 30歳 長男の峰夫氏誕生

昭和13(1938)年 34歳 理学博士の学位。主  
論文「ウマノアシガタ科とメギ科の比較細  
胞と形態」

昭和24(1949)年 45歳で名古屋大学教授

昭和28(1953)年 49歳 名古屋大学山岳会設  
立 顧問に就任

昭和41(1966)年 62歳 同会会長になる

昭和42(1967)年 63歳 日本山岳会東海支部  
第三代支部長に就任

昭和43(1968)年 64歳 マカルー遠征の委員  
長に選ばれる。

昭和45(1970)年 マカルー遠征隊長として陣  
頭指揮を執る

昭和47(1972)年 68歳 東海支部は休会に迫  
り込まれ、事務所が閉鎖されて会合は熊沢  
氏宅で行われる。

昭和49(1974)年 70歳 東海支部支部長を退任

昭和54(1979)年 75歳 学術書『植物器官学』  
出版

昭和57(1982)年 78歳 死去

昭和58(1983)年 「名古屋大学山岳会会報第三  
十三号の「熊沢正夫追悼特集」を発刊

昭和63(1988)年 『上高地 登山と研究』復  
刻版を名古屋大学山岳会が出版

子息の熊澤峰夫氏(くまざわ みねお、1934  
年 - )は、日本の地球科学者。名古屋大学理  
学部地球惑星科学科教授を経て、名古屋大学  
名誉教授。東京工業大学地球生命研究所リサ  
ーチアドバイザー。

ネット検索で得られた特筆すべき話題は四  
高教授時代の講義風景をして「植物学の熊沢  
正夫先生の整然とした講義はテキストなしで、  
見台にひろげたノートを読みあげ、ドイツ語  
の用語と図などを板書するというものであ  
った。講義の序論(Einleitung)の冒頭は、「吾  
人は善美を愛するがごとく真実(Wahrheit)  
を愛し、これを探究する性質がある」という  
荘重なものであった。鮎野義夫(昭和17年秋・  
理甲卒)『第4文集・人間の詩』から」とある  
ごとく学究肌であった。





## 東海支部の蔵書からの一冊⑫

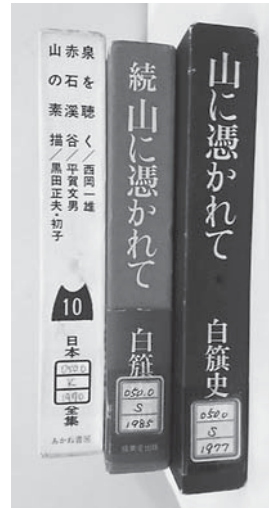
図書委員会委員長 石田文男

### 『山に憑かれて』 白簾史郎

昭和8年山梨県大月市に生まれる。昭和26年より岡田紅陽氏に師事。題名の「山に憑かれて」という言葉に魅かれて、著者がどのような山行をなされたのだろうかという思いから読み始めた。まず私自身の山行経験を思い出しながら理解できる「五竜岳」の章から。

「雪の五竜岳」、昭和50年12月28日から51年1月12日までの山行で、山岳写真撮影と9日間の風雪との闘いの記録。「北アルプスで迎える元旦の太陽は…真っ赤な太陽が昇るにつれて、鹿島槍がまず美しい紅に染まった。深い山肌の刻みを際立たせる光がこの後立山連峰の峻嶺をより美しく変容させ、…ことに五竜岳に連なる八峰キレット、北尾根の頭、G5の稜線の躍動と、急峻な山肌に着いた雪の幾何学模様は私を飽きさせなかった。…我に返ったのはフィルムを使い果たした後、…五竜岳も白馬三山もとうに朝焼けを終わって、なんの陰影もない、ただ白いだけの雪山になってしまっていた」。

そのようにし山の自然美と向き合った後、自然の厳しさと人間の生命、心の強さに向き合うのである。「気象通報は二つ玉低気圧の発生を告げた。…食糧はいやおうなしに食い延ばし作戦に切り替え…冬季小屋には積雪期の入山を計画した人たちのデポがあった。喉から手が出るほど欲しい品物が…だが、過去に自分も荷揚げ食糧を荒らされたことを思い、自分だけは過ちを断じて犯すまい」「5日間の降雪の後…5m進むのに15分かかかる下り、…精根尽きて休む…夜中に何度となくテントの雪かきに出る。…黙々とラッセルに終始…8時間に渡って続けられた。…尾根の北側に雪洞を掘り上げたのが午後7時、…食糧といえばピーナッツ6粒・ゼリー4個・サラミソーセージ少しだけであった。…何度目かに目を覚まして時計を見ようとして驚いた。つい鼻先まで天井が下がり…あとからあとから積もる雪の重量を支えきれないのだ。このままでは間もなく生き埋めになってしまうのは…外に出るのさえ自由がきかないほど



事態は切迫していた。夜が明けまた果てしの無いラッセルが…休み無しの7時間が過ぎて中遠見山を踏み…明日は遠見小屋に着くことができると見通しがつき、前途にいく分か光明を見出した」。こんなところを読んでいると胸が締め付けられる思いだが、登山家はどのような状況下にあっても登山家なのだ。

続いて目に留まった章は昭和34年7月の「悲しみの山」、鋸岳の遭難事故である。息の詰まる思いで一気に読み終える。遭難事故に遭わないことが一番大切なことであってもなぜか起きる。他人事とは思わない心がけを持ちたい。

日を違えて読んだ章は、昭和45年の東海支部のヒマラヤ遠征に同行した「マカルーへの道」。ヒマラヤは3ヶ月という期間、現地の習慣の違いは勿論だが、山への取り組みは格別なものだと分かる。日本のマナスル初登頂から14年後の事を思えば。またその他に「赤石沢遡行」と言う章も同じだ。昭和43年の頃の装備事情を考えるとかなりの精神力と体力を要求されたかが窺える。因みに赤石沢は沢(谷)の類では国内一である。

このようにして、著者白簾氏の山行を今日はこの章、次はこの章とその日の気分で疑似体験するかのように読むことができた。疑似体験と言っても映画を観るようなものであって、実際にはとてもとても経験できない山ばかり。どの章も胸が詰まるような内容ばかりでアドレナリンがたくさん出たように思ったが、白簾氏の内なる言葉には同感するものが多々あり。

それは昭和41年の「アフガニスタン追想」の一文、「何も見えない闇の砂漠にコーラン

の合掌が吸い込まれていき、満天の星をぬって音もなく移動する人工衛星の赤い光が見えた。大自然と人間と科学の粋との奇妙な調和に、何とも言えぬ感慨が私の胸に押し寄せてきた。…古代からのこういうありさまのままの自然や人の生活と、どう考えても異質な人工衛星が同居している現実…。どちらが人間にとって本当の幸せを生むのだろうか、さらにはそれらにはさまれた私たちの、何とも言えず中途半端な存在にも…。…人間は自然の中で生まれ、自然とともに成長し、自然に逆らわず生きていくことが本然の姿ではないかと思う。いや、そうでなければならぬのだ」。 (自然界の代弁と受け止めたい)

山の美と心に向き合い続ける著者は『続・山に憑かれて』も出版している。また、『南アルプス』という写真集を見ていると自分の知らない「山」に出会うことができる。

支部の書棚には図書館では出合えない山岳書が詰まっています。ルームに来訪された折にはぜひ手にしてご覧下さい。山岳書に興味を抱くことは視野の大きな山登りに繋がるもの。

『山に憑かれて』

昭和52年11月20日発行 320頁

『続・山に憑かれて』

昭和60年7月20日発行 351頁

四六判 発行：成美堂出版

図書委員 園田さえ子

『日本山岳名著全集 10』

東海支部の蔵書の中から、図書館でいう禁帯出に当たる貴重な古い本をお借りした。『日本山岳全集10』(1970年刊)である。大事な本なのでコーヒー片手に読む訳に行かず、電車の中で読むこともできず古い漢字にふりがなも無いので、なかなかとつきにくかったが読んでみるとこれが面白い。趣の違う3作はそれぞれに珍しい発見の連続であった。

「泉を聴く」 西岡一雄

マリヤ運動具店と言うかわいい名前のスポーツ用品店を立ち上げ、後に好日山荘を営んだ作者が昭和8年から9年に記したのが「泉を聴く」である。

東の冠松次郎、西の西岡一雄と自負していた様に沢(谷)歩きの先駆者で、本書のなかでは川、谷、沢の違いについて様々な角度から

見解を述べている。〈沢は水の浅い清い細流を思わせ、川はこの沢の水を集めて広大で豊富な水の流れを言い、谷は兩岸がVかU字状を呈す峽のこと〉だと言う。また〈地域性で異なる。越中(富山)では谷(タニ、タン)と呼び、信州では沢と呼ぶ。沢は甲信以東の呼称で、関西では沢でなく溪という〉と書いている。

そして、作者の好きな谷は日本アルプス以外では秩父と鈴鹿の愛知川、伊勢の大杉谷だそう。これほど昭和初期に各地の沢や谷を歩き、その形状について深く考察した人なのに、地図を読むのは苦手と言うから不思議だ。

「赤石溪谷」 平賀文男

作者は山梨に拠点を置いて南アルプスを徹底的に歩いた人で、南アルプスの著書も多い。この本にも南アルプスの山や溪をつぶさに歩いた様子が書かれている。また植物や鳥、動物の記述も興味深い。山犬(狼?)の足跡を見たという記述には驚いた。

寸又川の林業は慶長年間から行われており、榎島には東海紙業の事務所があり、水力発電の開発が行われたという。そうしてみると、80年たった今もさほど変わっていないように思う。しかし、かの山脈を貫通してリニアモーターカーが走るとは作者は思いもしなかっただろう。

「山の素描」 黒田正夫 初子

黒田夫妻の本は前にも読んだことがある。登山用具の整っていない昭和初期に果敢に日本アルプスの山々に挑んだクライマー夫妻だ。初子は夫に対して怯むことはなく同志の関係だ。山登りの記述は緊張感よりゆったりした余裕さえ感じる。中には、高山植物を摘み摘み下山したというような今では考えられない記述もあった。

昔の人の書いた本は面白い。今も山容は変わらないが、昭和初期の風物や人の暮らしが興味深い。しかし、今この様な昔の本は廃刊になっているものが多い。東海支部の書庫にはこういった古い書物がたくさんある。

読後感が新緑の風のように心地よかった。

1970年9月30日発行 328頁

A5判 出版：あかね書房

読図会員 飯島実千代

## 同好会紹介コーナー

東海支部員が有意義なクラブライフを享受するための組織として活動する同好会の活動を紹介するコーナーです。

### 古道塩の道同好会

山中光子

水のたぎり落ちる大田切川を渡ると、宮田村に入り「従是北高遠領」碑が目に入る。今回は3年程前の下見時に色々教えて頂いた宮田村の学芸員K氏と、何年か後にはグループで見学に来ますとの約束が果たせることとなった。

まずは待ち合わせの宮田宿本陣「旧新井家住宅」へ。閉鎖期間中にも関わらず屋敷内を案内して頂く。230年程前(江戸時代)のすべて板葺の建物で、屋根には行儀よく置石が並び、宮田宿の中心部にあったものを現地に移築。宿には、本陣跡地の看板あり。この建物は母屋と高貴な方の宿泊施設の座敷棟に別れている。ただ地理的に飯田藩主が参勤交代に利用する位で、普段は藩役人が出張時の臨時行政府や休憩所、会合所として利用した。

その後、大田切の観音堂へ向かう。同じく江戸時代、辰野の中馬達の馬宿で正月2日、馬子達の失火で15疋の馬と煙草等の荷物もろとも宿も全焼。翌年、馬宿跡に馬頭観音像15体をお堂に安置。

見学手配済だったが、家主が忘れて留守。仕方なくその後は大田切の急坂を上り、宮田宿の入口にあたる津島神社へ。ここの夏祭りにはあばれ神輿の行事がある。この行事は毎年作成する神輿を神社の階段から落としてバラバラにし、その破片を各家庭に持ち帰ると言うものだ。

宮田宿の距離は短いが、宿入口付近には明治時代の建物、奥へ進むにつれ江戸時代の建物の一部が残っている。宿入口付近は大火で焼け、その教訓で入口付近の住宅は、なまこ壁の住宅が並んでいた。その後、K氏の勤務先で宮田村教育委員会のある村民会館へ。

そこには、図書館、宮田村民俗学者の「向山雅重民俗資料館」が併設されている。入口には大きなワラジが展示されている。向山氏はワラジの研究から始まり多分野のおよび、農作業、生活する人々等をコツコツと訪ねて調べ、細かな文字で丁寧に記載され、スケッチまで入ったノートが展示してある。研究室には収蔵資料が山ほどあり、希望すれば閲覧可能。向山氏は宮田村誌にも執筆されている。K氏の案内はここ



宮田宿本陣「旧新井家住宅」屋根に置き石が並び  
まで。

宮田村は歴史に関わる資料が多数あり、それがきちんと整理され、遺跡、文化財パンフレットはもちろん冊子まで発行している。役行者像も村内で5ヶ所あり、おかげですべて拝観できた。

「昭和の大合併」により駒ヶ根市と一度は合併しながら、住民の激しい反対運動で宮田村へと独立している自我の発達している地域と言えるのではないだろうか。

その後、宮田宿のはずれから、石碑群を見ながら柘形(たけがた)の旧道を歩く。まもなく伊那市の看板が出る。宮田村から伊那市に入るが、伊那市と言ってもほとんど田んぼを見ながら歩く。そして飯田線赤木駅にぶつかる。さらに沢渡駅、下島駅と単純な長い旧道が続く。

今回は伊那宿として整備され、観光地でもある地域に入る。

### スケッチクラブ

村中征也



野辺山スケッチ旅行

## 野辺山スケッチ旅行

5月18日(木)～19日(金)、長野県野辺山高原へ12名でスケッチ旅行に行って来ました。JR東日本の小海線は、山梨県小淵沢駅と長野県小諸駅を結ぶ78.9kmの単線鉄道。八ヶ岳東山麓の高所を走り、観光地と化した山梨県清里の次が野辺山駅で、標高1,345mはJRの最高所として有名。

宿泊は八ヶ岳高原ロッジ。別荘地の白樺林の中に建つ素敵なホテルで、テレビ番組で「女優キャシー中島が40年前の新婚旅行で宿泊」を見て決めました。

初日は、ロッジから歩いて20分的美鈴湖へ。湖周はまだ冬の木立ながら、一面の芽吹きが綺麗で、湖面に写る赤岳と横岳をスケッチしました。

2日目は、八ヶ岳高原ヒュッテ前からのスケッチ。白樺林の向こうに連なる残雪の八ヶ岳連峰が見事でした。ヒュッテは黒塗りの2階建の洋館で、素敵な絵の対象でしたが、閉鎖されておりました。

八ヶ岳高原ロッジは、野辺山駅でのマイクロバス送迎があり便利ですが、夏季や音楽堂でコンサートがある時期は、予約がタイトになるようです。

今回は、9月10日(日)常滑市に出掛け、「やきもの散歩道」を描いてみたいと思います。

## 代表の交代

6月から代表が、石田好子さんに交代しました。会費無しの気楽な会です。経験など必要ありません。気軽に声を掛けて下さい。

代 表…石田好子

事務局…村中征也・武内喜代子

## 東海ASC

山田明美

2年前支部を揺るがす大事故が2件有り、又昨シーズンは記録的な少雪の影響で予定したバックカントリー山行はすべて中止となって、活動らしい活動はできなかった。今シーズンに(2016年～2017年)かける会員の意気込みは、シーズンイン前の12月の集会では活発な意見交換が出来、ポテンシャルの高さがうかがえた。活動報告(2016～2017年)

会も設立4年目を迎えた。が、休眠?の2年間を除くと出来たて同様の熱気にあふれており、その熱気に押されるようにして今シーズンの

計画を決め活動を展開した。

1月 日影平山(1,595m)⇒雪不足で中止

2月 木曾福島スキー場⇄蓑原スキー場のツアーコース⇒参加者4名と少なく、ゲレンデスキーに終始した。楽しいハプニングもあったが和やかなスキーの一日を過ごした。

3月 乗鞍岳⇒2回目の乗鞍岳に6名の参加を見て実施。

1日目・・・ゲレンデのベタ雪で遊ぶ。宿の食事の質と量に加え、スキー話しを肴に大輪の花をいくつも咲かせ遅くに就寝。



雷鳥の歓迎を受ける

2日目・・・ゲレンデ組と別れ山頂に向かう。夜来の冷え込みで最悪のコンディション!! 登頂をあきらめ位ヶ原からの厳しい滑降となった。

4月 奥美濃・野伏ヶ岳⇒悪天予報で中止! 諦めの悪い会員が後日行き、野伏ひとり占めだったとの報告があった。

5月 北ア・立山周辺(雷鳥荘3泊4日)

1日目・・・雷鳥荘に着いたら明日の撃沈を心配させるような強い雨!



剣岳に向かってスタート

2日目・・・起床時青空一色だったが雲が広が

った。雷鳥沢を必死の思いで登り、剣沢を1本滑る。快適な斜面がどこまでも続くが登り返しを考えて剣沢小屋上まで。メインの雷鳥沢に残した自分のシュブールを宿から何度眺めたか・・・気分はアドベンチャースキーヤーだ！3日目・・・浄土山頂から雷鳥沢へ滑降雲ひとつない青空の下、一の越までシール登行で快調に登る。尾根上でティタイム、コンロを出してまったりとした至福の時を過ごす。展望は申し分なく一級品！四囲を何度眺めても厭きる事が無い。昼頃、未練を残し雷鳥平に向かってドロップイン！

登りに要した数分の一の時間で到着、最後の登り返しはキツかった！4日目・・・昨日に増す青空！観光客でごった返すバスターミナルを逃げ出すように室堂を後にした。会員それぞれが登山活動に重きを置いて取り組んでおり、個人的意味合いの強い活動に終始した。会として安全技術習得に向けた活動が今後の課題となっている。

### 東海支部俳壇

山蕩児心酔

奥穂高凍てて月光冴へわたり

汗みずく飲む谷川の水旨し

峭壁を跳べる羚羊蝶のごと

氷解く日だまりの帯数千尾

◎グリーンランドの氷河湖にて

波打際に黒い帯、

近付いてみると鱒の稚魚が一斉に散った

竜ヶ岳赤白やしお匂ひたち

◎鈴鹿竜ヶ岳のやしお群は、天下一品

冴返る星くろぐろと野伏岳

◎5月の連休、和田山牧場にて

.....○.....○.....○.....○.....

片燃えの傷心の床梅雨の闇

西山秀夫

八人の犠牲は重し春愁

◎三月二十八日 岳連理事会で那須岳で起きた高校生ら八人の雪崩事故の犠牲を悼む

せせらぎの水も温むやブナの森

◎四月二十八日 段戸湖から寧比曾岳へ

駒鳥の声高らかに囀れり

筒鳥に耳傾けよ森の中

カモシカのじつと見てゐる春の山

はるかなる名古屋のビルも霞みけり

残雪の聖岳見し寧比曾岳

予後の身にビールは飲まず乾杯す

◎五月二十日 JAC 東海支部総会懇親会

初夏や東照宮の御神燈

◎豊田市松平町

アオサギがたたずむ田植へしたばかり

会員の訃報を悼む五月かな

◎五月二十七日 一等三角点研究会例会へ

岩戸への春落ち葉げに滑りやすし

# 支部友コーナー

## ◆支部友委員会山行計画

(平成29年9月～平成29年11月分)

- 9月1日(金)～3日(日) ☆  
山域：北アルプス 山名：蝶ヶ岳(2,677m)  
リーダー：尾上 昇 締切 8月10日
- 9月2日(土)～3日(日) ☆☆  
山域：中央アルプス 山名：空木岳(2,864m)  
リーダー：磯部 隆 締切：8月14日
- 9月9日(土)～10日(日) ☆☆  
山域：北アルプス南部 山名：焼岳(2,455m)  
リーダー：金谷正起 締切：8月19日
- 9月24日(日) ☆  
山域：布引山地 山名：経ヶ峰(819m)  
リーダー：田中 進 締切：9月4日

- 10月15日(日) ☆  
山域：八ヶ岳 山名：ニュー(2,352m)  
リーダー：今津英一朗 締切：9月22日
- 10月22日(日) ☆☆  
山域：鈴鹿 山名：竜ヶ岳(1,099m)  
リーダー：高松信治 締切：9月30日
- 10月29日(日) ☆  
山域：湖北 山名：山本山・賤ヶ岳  
リーダー：川北一博 締切：10月9日

- 11月3日(金・祝) ☆  
山域：中央アルプス 山名：南木曾岳  
リーダー：村瀬恭平 締切：10月25日
- 11月11日(土) ☆☆  
山域：豊橋 山名：湖西連峰 神石山(325m)  
リーダー：磯部 隆 締切：10月21日
- 11月18日(土) ☆  
山域：鈴鹿 山名：鈴鹿の上高地(995m)  
リーダー：金谷正起 締切：10月28日
- 11月25日(土) ☆  
山域：関ヶ原 山名：小谷山(859m)  
リーダー：田中 進 締切：11月5日

## 次回支部友ミーティング

### 開催内容のお知らせ

- ① 第25回 「地図の読み方」  
日時：8月8日(火) 19:00～21:00  
講師：今津英一朗氏・高松信治氏  
\*コンパスをお持ちの方はご持参ください。

- ② 第26回 「朝明ミーティング」  
日時：9月30日(土)～10月1日(日)  
内容：1日目バーベキュー・キャンプファイヤー等の懇親会 2日目分散登山
- ③ 第27回「手づくり忘年会・新入会員歓迎会」  
日時：12月12日(火) 19:00～21:00  
一年間を振り返り、山の思い出を語り親睦を深め合います。

## 支部友会員数

平成29年5月末現在 / 50名

## 山行対象者 支部友会員及び支部会員

### 申込み方法

- 支部友会員は申込締切日までに、各山行リーダーが示す方法で申し込む。
- 締切日 原則山行日 20日前まで。(締切日を過ぎての参加空き情報はリーダーに直接問い合わせ下さい)
- 支部会員は申し込み締切日の翌日以降に、各山行のリーダーへ問い合わせる。
- 山行の募集人員を超えない範囲で、支部会員の参加申し込みを受け付ける。

### リーダー連絡先

- 尾上 昇 FAX：052-832-3878  
メール：onoe@onoe.co.jp
- 伊藤康信 携帯：090-2577-8137  
メール：kobitokaba@mediacat.ne.jp
- 金谷正起 携帯：090-9931-3600  
メール：kanaya.masaki@rouge.plala.or.jp
- 川北一博 携帯 090-3956-4123  
メール：kawakitakazuhiro@outlook.com
- 村瀬恭平 携帯：090-4186-9876  
メール：hoshizakari@ezweb.ne.jp
- 田中 進 携帯：090-9191-8666  
メール：t-susumu@peace.ocn.ne.jp
- 今津英一朗 携帯 090-2616-7549  
メール：imazu.eitirou@maroon.plala.or.jp
- 磯部 隆 携帯：090-9180-7245  
メール：takass@yk.commufa.jp
- 高松信治 携帯：090-3156-5268  
メール：takama2nobu3@yk.commufa.jp
- 松本陽子 携帯：090-7859-4031  
メール：yo-kom@nifty.com

## 委員会報告

### 【亀の会】

～888.8mの山で大坪さんの米寿を祝う～  
4月27日(木)亀の会月例山行で「大坪さんの米寿を祝う」山行として静岡市の標高888.8mの櫛立山(けやきたてやま)へ行きました。

お祝い山行ということでいつもより多い31名が参加しました。竜爪山(りゅうそうざん)の旧道平山登山口を出発点に穂積神社を経て竜爪山の反対方向を50分登って櫛立山山頂へ。山頂で、全員が大坪さんとハイタッチ。

万緑の山々米寿を祝うかな 鈴木隆

穂積神社まで降りて、まだ桜が咲いていた神社境内で祝宴。幸いここには椅子、テーブルがあり、きれいなトイレもある。持ち寄ったアルコールやつまみで乾杯・祝宴。

山桜米寿言祝ぐ山の宮 脇田幸子

宴は、帰路のバスの中まで続きました。参加者は、大坪さんの米寿を自分のことのように喜び、歓談しました。仲間意識を強く自覚し合った祝宴山行でした。

米寿山行迎る家路や春夕焼け 大坪重遠



急勾配を登る大坪さん(上から二人目)

大坪さんの言葉(要約)

「米寿の日を迎えることができるかどうか、なるようになるさと他人事のように思っている間に、とうとうその日が来てしまいました。お祝いして下さった皆様に心から御礼申し上げます。

森羅万象に影響されず時を進めてゆく、ギリシャの神話に出てくるクロノスを描きだした先人の悟りのようなものを強く感じています。

若い頃も中年の時も、そして今の亀の時代のも心も知っているのは、若い人にはない私達の共



「大坪さんの米寿を祝う」

通認識です。これからも自然に抗わず、みんなで仲良く登りましょう」。

ふり返ってみれば、2008年7月亀の会が発足したときは、目標は「傘寿を迎えるまで山歩きを楽しみたい」でした。今まで傘寿を祝った人は18人(現在籍で14人)。いつの間に、傘寿は通過年齢となり、目標が「米寿」になってきました。大坪さんはそのトップランナーとして、亀の会のメンバーに夢と目標を示していただいています。

加齢に伴う体力、気力の低下、そして病気。同年代の集まりである亀の会は、それらを丸ごと受け入れ、「耳は遠くなり、トイレは近くなる」「佳人薄命というから、亀の会には、佳人はいない」などの言葉を笑い飛ばせる零意気を持っています。適切な食事、運動、睡眠に心がけながら、今後とも「老いの登山」を皆で楽しみたいと思っています。

亀の会の年齢構成(2017年4月30日現在)

- ・86歳～80歳(昭和5年～12年3月生) 14人(男8 女6)
  - ・79歳～75歳(昭和12年4月～17年3月生) 11人(男4 女7)
  - ・74歳～70歳(昭和17年4月～22年3月生) 22人(男8 女14)
  - ・69歳未満(昭和22年4月生以降) 10人(男6 女4)
  - 計 57人(男27 女31)
  - ・視覚障がい者会員4人(全盲2人、弱視2人)
- 加藤守彦

# 会 務 報 告

## 【2017年3月常務委員会】

日時：3月22日(水) 19時00分～21時00分

### 1. 支部長挨拶(高橋)

次年度以降に向けて色々協力し合うため、各委員会を大きくグループに分けたい。

2. 青年部カナディアンロッキー 2017について(高橋)：配布された資料に基づき報告。本計画について東海支部チャレンジ基金の利用を申請。一チャレンジ基金から20万円の応援する提案あり承認された。

### 3. 委員会報告

①会計(市川)：年会費について、3年間未納者は現在2名。納付の請求中であるが難しそう。各委員会より会計報告が提出された。来年度の各委員会の費用については次回の委員会にて提案する旨報告。

②岳連(市川)：報告事項なし。

③支部友委員会(金谷)：配布資料に基づき2月及び3月の山行について報告。4月11日に予定している講座「最新の登山グッズ」は支部友、支部員対象の公開講座で開催予定。登山学校の開校に伴い、一般の入校希望者は支部友に入会してもらうことになるため、支部友委員の増員について要検討。

④山行委員会(鈴木)：配布資料に基づき実施状況、今後の予定など報告。山行リーダーについて、新たに4名受諾の旨報告。今後のリーダー育成について技術向上委員会の講演会として猪熊氏の天気に関する講座の要望があった旨報告。

⑤猿投の森づくり委員会(小川欠席の為 毛利)：配布資料に基づき作業の実施状況、今後の予定につき報告。4月8日ヤマザクラ観桜会、是非多くの方に参加いただきたい。

⑥支部報編集委員会(星欠席の為 毛利)：No. 149は3月31日に発送予定。

⑦青年部(藤寄)：配布資料に基づき、今年度及び次年度の事業報告。次年度は登山のジャンル別に連絡する体制を整え、皆が山行に参加できる仕組み作りに向け報告。

⑧東海ユース(山田)：配布資料に基づき今年度の活動及び次年度の年間計画について報告。会員による山行運営へ徐々に移行していく。次年度の定例山行は指導員が関与することなく企画委員が計画し、実施後、計画を検証し、課題を次回山行に活かしていく。他支部ユースとの

合同登山、青年部との交流登山を検討中の旨報告。

⑨遭難対策委員会(山田)：8月～3月の支部への登山届提出状況について資料に基づき報告。留守電が減っているとのこと。4月より長野県の登山届のFAX番号が統一される旨資料に基づき報告。コンパスによる登山届についてはあらかじめ設定された下山予定時刻から一定時刻を過ぎても下山報告がないと遭難扱いとなる場合があり、使い方について注意が必要の旨報告。

⑩登山教室委員会(天野)：配布資料に基づき報告。中日、朝日について4月以降も運営すること。指導員研修についても次年度も継続実施とのこと。指導員研修の山行内容については技術向上委員会と協力して行っていくことを検討する旨報告。新たに副委員長を2名任命の旨報告。

⑪自然保護委員会(南川)：配布資料に基づき報告。第7回東海支部自然観察研修山行「木祖谷の自然林を訪ねて」を計画中。猿投の森の動物調査について資料に基づき報告。今後、イノシシ、アライグマ、シカが増加していることが見込まれる。県へ情報提供しつつ、今後も調査を続けていく旨報告。委員長は次年度より井藤氏へ交代とのこと。

⑫ボランティア委員会(前田)：配布された資料に基づき報告。新規事業として保護観察中の少年の登山支援を社会更生復帰事業の一環として行っていくことを検討中。

⑬写真展実行委員会(井上)：写真山行の結果と実施予定を報告。来年3月に予定している写真展の会場申請中。

⑭登山学校運営委員会(尾上)：3月31日発送の支部報に支部友、支部員に向けた資料を同送予定。専用メールアドレスを取得し、申し込みを受け付ける予定。6月までに第1回の運営委員会を開催予定。デジタルメディア委員会へHPへの掲載を依頼。了承。夏山フェスタにて一般へ広報予定。登山学校卒業生について更なる技術向上を希望する場合は技術向上委員会に協力要請を検討中の旨報告。

### 4. 審議事項

①支部規約の改正について(毛利)：改正案について配布された案につき説明。→一部文言を修正し承認。



②準会員制度について(毛利):準会員規定について配布された案を説明。→承認。

③支部山行要領の改正について(毛利):配布された改正案につき説明。→承認。

④29年度組織図について(毛利):配布案で説明。各委員会を大きくグループ分けする。これにより事業に変更が生じるものではないが、将来的にはグループ内で連携していくことを検討中の旨報告。案に「文化事業グループ」を加え、承認。

⑤29年度役員について(毛利):配布案に基づき説明。評議員の選任については今後検討。

出席:高橋、佐野、山田、片岡、尾上、市川、南川、石田、前田、鈴木、天野、井上、箕浦、藤寄、毛利、金谷

### 【2017年4月常務委員会】

日時:4月27日(水)19時00分~21時00分  
1. 支部長挨拶(高橋)

先般、栃木の高体連による事故があった。若い人の事故のある中で登山計画書の義務化が進んでおり、今回登山計画書の未提出による罰金が科された事例がでた。(長野県側から西穂高岳への登山で飛騨側に落ちた山行)今一度、安全第一を肝に銘じて活動をしてほしい旨の訓示があった。

また常務委員会の活性化の観点から若い人の参加を考えて新人2名に常務委員会のメンバーとして出席してもらった旨案内有-県岳連担当として鎌倉支部員、東学連代表高野君。また自然保護委員会では井藤さんに今回初の女性委員長をお願いした旨報告。常務委員会の会議では、お茶出しを廃止する事とした旨報告。

最後に武豊町から富士登山の計画を持ち掛けられたが、登山計画そのものにも問題があるので、日本山岳会の名前の付いた形での支援はやめるべきとの意見が多数だされた。-、高橋支部長の方で今後の対応を再検討することとなった。

### 2. 委員会報告

① 会計(市川):総会を前にして、平成28年度決算報告と平成29年度予算案の報告を行った。一部文面上の表記等について意見が出されたが、そのまま総会資料として出すことが了承された。

② 支部友委員会(金谷):3月の山行は全て終了した。大日ケ岳の山行は新雪で、雲母峰から鎌ケ岳は雪の為雲母峰のみとなった。4月は4件を計画しているが4月2日の継鹿尾山・鳩吹

山4月13日の春日井三山4月15日の御池岳は既に終了した。4月29日の東海道鈴鹿峠は予定通り実施の予定。支部友ミーティングは駅前アルプスの千葉泰丈氏の『最新の登山グッズ』をテーマに話を聞いた。現在の会員状況は退会が2名で会員総数は52名である旨の報告があった。

③ 猿投の森づくりの会(小川):4月2日の長久手まちセンまつりは猿投の森づくりの会のPR活動としてパネル展示を行い好評だった。4月4日のわいがや講座は『炭の力』をテーマにして尾張旭市交流館で実施した。4月8日の猿投の森/ヤマザクラ観桜会は雨模様の中、35名の参加者があった。ヴァイオリン演奏や和太鼓の演奏があり好評だった。午後は自然観察会を実施したが山桜の開花は見られなかった。4月13日は臨時作業をした。4月15日は『木々の芽吹き』をテーマに定例自然観察会を実施した。参加者は16名。4月18日は東大の演習林で5名の参加で間伐処理。4月22日は定例作業日の実施の後、午後は『新芽を食べる会』を参加者19名で実施し、多数の食材を天婦羅にして食べ好評だった。

④ 山行委員会(鈴木):山田副支部長より山行時の危険解消の為には新たな参加者のある場合は山行レベルを確認し、自ら考え判断する能力を持った登山者を育てるようにしていく事の提言があった。今後の山行計画については5月2日からの鹿島槍ヶ岳と5月27日からの台高山地は参加者が少なく中止とした。実施状況については3月19日からの中ア・木曾駒ヶ岳・三ノ沢岳は強風のため2日目の予定を中止した。4月1日の銚子ヶ口からイブネは残雪が多かった為、銚子ヶ口で折り返す事となり4月8日の釈迦ヶ岳も残雪が多く1名が苦戦をした。リーダー育成については①技術向上委員会講演会の実施②山行のあり方については山行委員会で年間計画を立て各リーダーに実施を要請していく方式を試みる事とした。その他として山岳保険の表記についての改善を行う事を決めた。

⑤ 亀の会(加藤):4月27日、静岡の櫛立山へ31名の参加で実施する旨報告。

⑥ 東海ユース(山田):3月は個人山行が減っている。5月の計画は4件を予定している。その中で特筆すべき事項として5月3日からの北ア・杓子岳双子尾根と5月14日の岐阜岳連で行う伊木山でのレスキューの参加計画が上が

っていること。第1回企画委員会の中では10月28日の机上学習は猿投の森の音楽祭の日程と重なるため変更をする。第2回企画委員会は4月9日、第3回企画委員会は5月13日午前中に行うとの事。また、リーダー育成としてユース1期生の企画で6月3日～4日の山行を企画実施する。ただ現在の処、企画はまだ上がっていないとの事だった。遭対委員会報告として平成29年度の登山届の状況は49件出ているとの事で、山行届けについては、山・コース・メンバー・行程などを支部に、山域によっては警察に届け出ることを徹底してほしい旨の報告があった。

⑦ 支部報編集委員会(星)：7月1日発送の支部報150号の内容について、今回は総会の報告をメインに行う。また青年部からは登攀報告を戴きたい。また、JACグッズ先行販売を掲載の予定でいるとの事。原稿締め切りは5月26日とする旨の報告があった。

⑧ 青年部(鎌倉)：新入会員2名の紹介を行った。3月の山行報告はクライミング中心に行われた旨の報告があった。計画については4月15日から5月8日までカナダの計画を発表した。

⑨ 自然保護委員会(井藤)：平成28年度の事業報告あり-7月16・17日に全国集会、95名が参加(内、東海支部から7名)11月5・6日森の勉強会を奈良県長谷寺で実施、23名の参加で東海支部は9名だった。森の勉強会は20回開催してきたが今回で終了となった。猿投の森の動物調査は、6回実施して南川氏を中心に赤外線カメラを設置しデータを収集した。猿投の森の散策山行は11回実施して今年で終了する。2017年度の活動予定は、自然観察山行は調整中。JACの自然保護委員会の全国集会は岐阜支部の担当で場所も決定している。猿投の森の動物調査は南川氏を中心に今年も継続して行う。

⑩ ボランティア委員会(前田)：SON・愛知支援登山「山岳会といっしょに登山2017」は4月22・23日に朝明茶屋をベースに2コースの実施し無事終了をした。参加者はアスリートが7名、SON愛知家族・スタッフが26名、東海支部が30名(内学生連盟8名)だった。春のブラインド登山は5月14日に美濃天王山で行う。今回の参加者は42名を予定している。内訳は視覚障がい者11名、付き添い4名、東海市支部27名で行う。第6回ひまわり山行は5月28日に実施をする。親子の自然教室については

自由が丘幼稚園と相談の結果10月21日に自由が丘幼稚園、11月4日に第2・第3自由が丘幼稚園に決定した。又、ボランティア委員会、夏の委員会、支援者、関係団体親睦山行を9月9日、10日で行う旨の報告があった。

⑪ 写真展実行委員会(山田)：第16回東海岳人写真展は2018年3月20日から25日に名古屋市市民ギャラリー栄7階第3展示室+第4展示室の会場で決定した。10月から写真の募集を開始する。写真山行の実施については、3月は八方尾根を10名で実施した。4月に予定していた西穂高の計画は5月9日・10日に変更した。5月は日帰りで御在所、6月は御嶽自然湖を11日から12日、6～7名で行う。7月は蝶ヶ岳を20日から22日で行う予定をしている。8・9月は計画中で毎月行っていく。

⑫ 技術向上委員会(片岡)：5月13日に図書委員会と共催して愛知県在住の若手クライマーに依頼をして講演会を実施する。6月18日の山フェスの日に、鹿屋体育大学の山本正義さんに来ていただき、登山の運動生理学とトレーニング学の講演を予定している。名古屋市立大学蝶ヶ岳ボランティア診療班が主催し、東海支部は協賛という形で進める予定をしている。詳しくは4月27日の技術向上委員会で決定次第知らせるようにするとの事だった。

⑬ 学生連盟(高野)：学生山岳連盟で情報交換をしている加盟大学は名古屋大学・名古屋工業大学・三重大学・南山大学・大同大学・岐阜大学・岐阜医療科学大学・東海大学の8大学。学生連盟の活動として、5月26日春の総会を行う。9月23日・24日には、御在所・藤内小屋にて学生連盟主催で「御在所フェス」を実施する。

⑭ 登山教室(山田)：5月13日にトヨタ労組の登山が御在所であり支部から6名行く。参加は30名で、1班5名の6班にして行う。4月23日に座学は終了した。

⑮ 愛知県岳連(市川)：4月22日愛知県岳連の総会を実施。平成28年度の事業報告・決算と平成29年度予算計画の発表をした。愛知県岳連は愛知県在住の山岳会52団体の集まりで、個人登録数は1063人の集まりとの事。予算規模は360～370万円で活動内容は多岐にわたり、一般市民向けには県民登山教室等、年間を通じて数回実施している。又、指導員講習会、遭難対策委員会、自然保護関係、国体予選の活動、高体連の指導、クライミングの記録会、を実施している旨の報告があり、岳連の各役員につい

て報告があった。

⑩ 総務(毛利)：平成 28 年度の事業報告・事業計画及び平成 29 年度の組織図と役員について資料を配布。漏れている内容があれば総会までに付け加えたいので報告をお願いしたいとの旨の報告があった。支部長より組織図についての報告と、役員の中で評議員の退任、新任について報告があった。

出席：高橋、佐野、山田、片岡、尾上、市川、加藤、和田、星、南川、石田、金谷、小川、鈴木、前田、箕浦、毛利、井藤、鎌倉、高野

### 【2017 年 5 月常務委員会】

日時：5 月 24 日(水) 19 時 00 分?20 時 30 分

#### 1. 支部長挨拶(高橋)

総会は滞りなく終了。しかし出席率が悪いのではという意見あり。講演は内容も興味深く、谷氏にも支部活動についてよくご理解いただけた。GWは残念ながら名古屋の山岳会会員の事故が 2 件あった旨報告。今後共安全第一でお願いしたい。夏山フェスタは皆様のご協力により運営の目処が立った。

2. 「サマーアタック富士」 武豊町商工会による計画については打合せを重ね、内容を見直し、青年部の協力が得られたことなどから人的・技術的な面で後援することとしたい。詳細は配布資料のとおり。承認

#### 3. 委員会報告

①会計：(市川氏欠席 報告事項なし)

②岳連：(鎌倉氏欠席 報告事項なし)

③支部友委員会(金谷)：配布資料に基づき 4～5 月の山行及び今後の支部友ミーティングについて報告。夏山フェスタについて、昨年の反省を踏まえ、今回は入会希望の意志の強い方に記帳してもらう予定。

④山行委員会(鈴木)：配布された資料に基づき実施状況、今後の予定など報告。今後の山行のあり方について検討中。シリーズ山行やテーマを決めた山行を検討しているが、テーマによってはツアー登山になりかねず、検討を重ねる旨報告。

⑤亀の会(加藤)：配布資料に基づき、月例山行の実施状況等報告。4/27 に米寿を迎えた会員を祝う山行あり。会の中で他の山岳会で行っているように米寿、卒寿等表彰などあっても良いのではと提案あり。

⑥猿投の森づくり委員会(小川)：配布資料に基づき作業の実施状況、今後の予定につき報告。29 年度の事業計画について 5/20 の総会にて承

認された。

⑦東海ユース(山田)：配布資料に基づき 5 月の活動及び今後の計画について報告。5 月にユースでは初の初歩の雪稜として杓子岳へ山行を行った。夏山フェスタは 8 名が協力予定。

⑧遭難対策委員会(山田)：4 月～5 月の支部への登山届提出状況について資料に基づき報告。5 月は天候が良かったこともあってか、留守電が増加の旨報告。

⑨支部報編纂委員会(星)：No. 150 について原稿締切は 5 月 26 日。予定以外でも記事を受け付ける。

⑩青年部(藤寄氏欠席の為 高橋)：3 名の入会希望あり。海の日に親睦登山を予定している旨報告。

⑪自然保護委員会(井藤)：配布資料に基づき報告。第 7 回東海支部自然観察研修山行は都合により中止し、10 月に改めて実施を計画中。JAC 自然保護委員会全国集会について 10 名参加予定、引き続き参加者を募集の旨報告。

⑫登山教室委員会(天野)：朝日、中日で実施中。朝日では 6 月に猿投の森にご協力いただき、猿投でテント設営と山飯の山行を予定。今後、登山教室委員会・山行委員会・支部友委員会の各リーダーの合同研修を検討中。

⑬海外登山・インドヒマラヤ(高橋)：星隊長のもとで来年遠征実施の予定している旨報告。

⑭ボランティア委員会(前田)：5/14 実施のブラインド登山は天気も良く視覚障害者 9 名を含む 39 名の参加で無事終了。

⑮写真展実行委員会(井上)：5/11 に委員会実施。主にパネル作成について検討重ねている。写真展への出展について、従来は支部員・支部友会員に出展を絞っていたが、猿投の森・青年部・ユース・学生も出展可としたい。→了承

⑯デジタルメディア委員会(井上)：臨時を含めメルマガは 8 号まで配信した。記事の掲載依頼にあたってのガイドをまとめ提示したい旨報告。

⑰技術向上委員会(片岡)：5/13 図書委員会と共催で講演会を実施。文化の香りのする良い内容となったが参加者が少なく残念。6/18 は「登山の運動生理学とトレーニング学」の講演を名古屋市大にて実施するので都合の付く方は参加をお願いしたい。

⑱東海学生山岳連盟(澤井)：配布された資料に基づき報告。御在所フェスティバルについては昨年の反省として、外部からの参加者の登山レ

ベルが把握しづらく要検討。5/26 に春の総会開催予定の旨報告。

⑱登山学校運営委員会(尾上)：現在、支部及び支部友から約20名の申込。夏山フェスタで募集する。5/30に第1回の委員会を開催。担任と副担任の確保、会員管理が今後の課題。

⑳総務委員会(毛利)：森の音楽祭のチラシ・ポスターを近日中に発注。夏山フェスタで配布予定。夏山フェスタは青年部・ユース・支部友等各委員会から協力いただき、要員を確保できた。

㉑その他(尾上)：夏山フェスタについて先日最終打ち合わせが終了。第5回となり、スポンサー、山小屋等出展者数は過去最高に。新セミナーも企画している。

その他(佐野)：2月の常務委員会で承認いただいたグッズ販売について7月に先行発売。支部報に掲載予定。

出席：高橋、佐野、山田、片岡、尾上、井藤、加藤、前田、星、鈴木、天野、小川、井上、箕浦、毛利、金谷、澤井

総務委員会 毛利邦男 記

## ル ー ム 日 誌

— . . — 3月 — . . . . .

- 1日(水) 青年部/TNCC(同好会)
- 2日(木) 山行ミーティング
- 3日(金) 古道塩の道
- 6日(月) 支部友委員会/支部報編集委員会
- 7日(火) 県岳連
- 9日(木) 自然保護委員会
- 12日(日) 東海YOUTH
- 13日(月) 登山教室委員会/支部報委員会
- 15日(水) 山行委員会・総務委員会/正副支部長会議
- 16日(木) 東海学生山岳連盟
- 21日(火) ボランティア委員会/支部報編集委員会
- 22日(水) 総務委員会
- 23日(木) 技術向上委員会
- 24日(金) リーダー会議
- 25日(土) 東海ユース
- 27日(月) 読図会・図書委員会
- 28日(火) 猿投の森運営委員会

— . . — 4月 — . . . . .

- 1日(土) 支部報発送
- 3日(月) 支部友委員会
- 4日(火) 県岳連
- 5日(水) 青年部/TNCC(同好会)
- 6日(木) 写真展委員会

- 7日(金) 古道塩の道
- 10日(月) 登山教室委員会
- 11日(火) 支部友ミーティング
- 12日(水) 支部山行打ち合わせ
- 13日(木) 自然保護委員会
- 17日(月) 読図会・図書委員会
- 18日(火) ボランティア委員会
- 19日(水) 山行委員会・総務委員会/正副支部長会議
- 20日(木) 東海学生山岳連盟
- 21日(金) 亀の会(14時~17時)
- 25日(火) 猿投の森運営委員会
- 26日(水) 常務委員会
- 27日(木) 技術向上委員会
- 28日(金) 森の音楽祭実行委員会

— . . — 5月 — . . . . .

- 1日(月) 支部友委員会
- 8日(月) 登山教室委員会
- 9日(火) 県岳連
- 10日(水) 青年部/TNCC(同好会)
- 11日(木) 自然保護委員会・写真展委員会
- 12日(金) 古道塩の道
- 13日(土) 講演会(技術向上委員会)
- 15日(月) 図書委員会、読図会
- 16日(火) ボランティア委員会
- 17日(水) 山行委員会/総務委員会・正副支部長会議
- 18日(木) 東海学生連盟
- 20日(土) 猿投の森づくりの会総会/支部懇親会
- 22日(月) 山行打ち合わせ
- 23日(火) 猿投の森運営委員会
- 24日(水) 常務委員会
- 25日(木) 技術向上委員会
- 26日(金) 東学連

## 会 員 異 動

- 入会：松本洋子(16156) 木村桂子(16149)  
犬飼美弥子(16148) 田中基子(16147)  
奥野明美(16191) 田中 浩(16179)  
水野猛志(16192) 中子敦雄(16193)  
奥岡 修(16194) 吉川拓矢(16214)
- 退会：山本敏子(15033) 渡辺春美(15256)  
夏目正憲(10625) 田中守之(11217)  
小高章裕(14502) 鈴木常夫(6914)  
川端 守(13411) 嶋山成泰(11783)

物故：森 範宏(13808)

# INFORMATION

## 【森の音楽祭実行委員会からのお知らせ】

第9回森の音楽祭2017を下記要領にて開催します。皆様お誘いあわせの上参加ください。

内容：猿投の森特設会場入り口でアルプホルンの演奏でお迎えした後、東海学園交響楽団によるドボルザーク作曲、交響曲第8番ト長調作品88番の演奏を楽しんで頂きます。

昼食後は希望者による①森の観察会と②猿投山を目指したハイキングを行います。

開催日：10月28日(土)

場所：県有林やまじの森(猿投の森) 特設会場(雨天の場合はパルティ瀬戸(名鉄尾張瀬戸駅東隣)にてアルプホルンと交響楽団の演奏のみ開催)。

参加費：500円

集合場所・時間：名鉄瀬戸線 尾張瀬戸駅前 午前7時30分～9時

瀬戸駅から猿投の森入口まで無料バスでの送迎、バス下車後、音楽会場までは徒歩(約2km)。

申込方法：ハガキ・ファックス(東海支部森の音楽祭実行委員会宛)又はe-mail(メールアドレス：sanagenomori@gmail.com)

問合せ先：毛利邦男

森の音楽祭際実行委員会 毛利邦男

## 【自然保護委員会からのお知らせ】

今年も恒例の自然観察山行を計画いたしました。内容は下記の要領で実施します。関心のある方ご一緒にしませんか。

支部員の皆様方が多数ご参加くださる様ご案内致します。

開催日：10月19日(木)～10月20日(金)

フィールド：田原市「泉福寺」と周辺の森  
宿泊：三谷温泉「松風園」

参加費用：14,500円

移動手段：参加者の車乗り合わせ

講師：北岡 明彦氏

募集人員：15名

締切日：8/31までに

申込み問い合わせは 井藤恵美子まで

Eメール：[nag20063@nifty.com](mailto:nag20063@nifty.com)

自然保護委員会 井藤恵美子

## 【写真展実行委員会からのお知らせ】

下記のような写真撮影山行を企画しています。是非、参加をご検討ください。

写真撮影山行では、登攀・歩行を少なくし、写真を撮影できる自由時間を多くした、山の景色や花などの撮影対象が多い場所への山行を計画しています。カメラはコンパクトデジカメ、三脚無しでもOKです。

### ① 蝶ヶ岳

- ・月日：7月20日～22日 2泊3日
- ・交通手段：公共交通機関又は自家用車
- ・撮影対象：残雪の北アルプス槍・穂高の眺望は圧巻です。
- ・申込締切：6月15日

### ② 潤沢

- ・月日：9月25日～27日 2泊3日
- ・交通手段：公共交通機関
- ・撮影対象：紅葉の潤沢と穂高連峰
- ・申込締切：8月15日

### ③ 立山天狗原

- ・月日：10月1日～2日 1泊
- ・交通手段：公共交通機関
- ・宿泊：天狗原山荘
- ・撮影対象：紅葉の立山連峰、天狗平、弥陀ヶ原
- ・申込締切：8月末

\*東海支部のHPに詳細が掲載してあります。メニューで「写真展実行委員会」をクリックしてください、

\*月日や行程、移動方法は参加希望者との相談で変更する可能性があります。

\*参加希望、問い合わせは、井上 (090-6590-6669、shasin@jactokai.net) または、写真展実行委員までご連絡ください。

写真展実行委員会 井上 寛之

## 編集後記

総会も無事終わりました。組織図には、今年も新しい委員会名が追加されています。支部員の皆さん、各委員会に所属して支部の活力を益々盛り上げてください。 星 一男

海外トレッキングのパイオニア!



世界の山旅を手がけて48年

“山仲間オリジナルツアーを企画しませんか?”  
説明会にお伺いします。お気軽にご相談下さい

名古屋 052-581-3211    
〒450-0002 名古屋市中村区名駅3-23-2 (第3千禧ビル3階) [www.alpine-tour.com](http://www.alpine-tour.com)



ハイキングから本格的な高峰登山までお気軽にお問い合わせ下さい。  
観光庁長官登録旅行業第1167号 / (社) 日本旅行業協会正会員

株式会社アトラストレック

名古屋サービスデスク TEL: 052-788-2422  
(東京本社転送電話)

【東京本社】〒180-0008 東京都新宿区三栄町25番地 三栄ハウス202  
TEL: 03-3341-0030 FAX: 03-3341-9200 E-Mail: info@atlastrek.co.jp  
ホームページ <http://www.atlastrek.co.jp/>

SINCE 1975  
mont-bell

ウェア・ギアに  
遊び心もそろえて  
お待ちしています!

アウトドア用品は、  
機能的なアイテムが豊富にそろっ  
「モンベルストア」へ。



- Outlet 名古屋店** | 愛知県名古屋市中区栄3-18-1  
ナディアパークロフト 6階
  - Outlet 長久手店** | 愛知県長久手市片平1-901
  - Outlet 名古屋みなと店** | 愛知県名古屋港区品川町2-1-6  
イオンモール名古屋みなと 3階
  - 各務原店** | 岐阜県各務原市那加壹場町3-8  
イオンモール各務原 2階
  - Outlet 長島店** | 三重県桑名市長島町浦安368  
三井アウトレットパークジャストリーム長島 2階
  - 鈴鹿店** | 三重県鈴鹿市庄野羽山4-1-2  
イオンモール鈴鹿 1階
  - 新静岡店** | 静岡県静岡市葵区鷹匠1丁目1-1  
新静岡セノバ 4階
  - ららぽーと磐田店** | 静岡県磐田市高見丘1200  
三井ショッピングパークららぽーと磐田 1階
- Outlet** アイコンのある店舗では、アウトレット商品も取り扱っています。

【お問い合わせ】  
モンベル・カスタマー・サービス ☎ 0088-22-0031 / TEL. 06-6536-5740  
※フリーコールは携帯・IP電話からはご利用いただけません。

企画・デザイン・印刷



株式会社 浅井隆文社

〒453-0801 名古屋市中村区太閤四丁目8番3号  
TEL (052) 451-6656 FAX (052) 451-6657  
E-mail: ta@asai-rbs.co.jp

◆◆◆◆◆ OMC ◆◆◆◆◆

住いのコンサルタント

(有) 富士見企画

〒460-0014  
名古屋市中区富士見町8番8号

◆◆◆◆◆

建設業許可を取りたい、日本国籍を取得したい(帰化)、遺言を公正証書で作成したい、戸籍謄本や除籍謄本を代行取得して欲しい、任意成年後見の相談をしたい、会計記帳を頼みたい等々

ご相談は行政書士の西山秀夫へ

〒460-0002 名古屋市中区丸の内3丁目21番21号  
(地下鉄・久屋大通駅から徒歩から2分) 丸の内東桜ビル1004号室

TEL: 090-4857-9130

URL: <http://www.nygs-office.com/>



(株)ワークシステムサービス

一般社団法人 日本自動車運行管理協会  
一般社団法人 中部地区自動車管理業協会

- ・一般貸切旅客事業
- ・車両運行管理事業
- ・愛知県知事登録旅行業
- ・労働者派遣業
- ・ビル清掃管理事業
- ・介護支援事業

〒465-0021 名古屋市長栄区猪子石3丁目113番地  
TEL 052 (779) 8777(代) FAX 052 (779) 0031  
<http://www.work-system.co.jp/>